日田市埋蔵文化財調査報告書第 127 集

元宮遺跡５次

２０１７年

日田市教育委員会

墳墓群全景（東から）

墳墓群遠景（南から）

序　　文

この報告書は、当委員会が平成 26 年に福祉施設建設工事に伴って発掘調査を行った元宮遺跡 5 次の調査内容をまとめたものです。

調査では弥生時代末から古墳時代中頃にかけての墳墓群が発見されました。周辺ではこれまでに 4 次にわたる調査や試掘が行われており、調査地周辺の舌状丘陵頂部には墓群が広がっていたことが明らかとなっています。今回の調査ではこれまでのなかで最も密集した墓群を検出することができ、この墓群の構成や日田盆地における当該期の葬送儀礼の展開などを考える意味で貴重な発見となりました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や地域の歴史、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

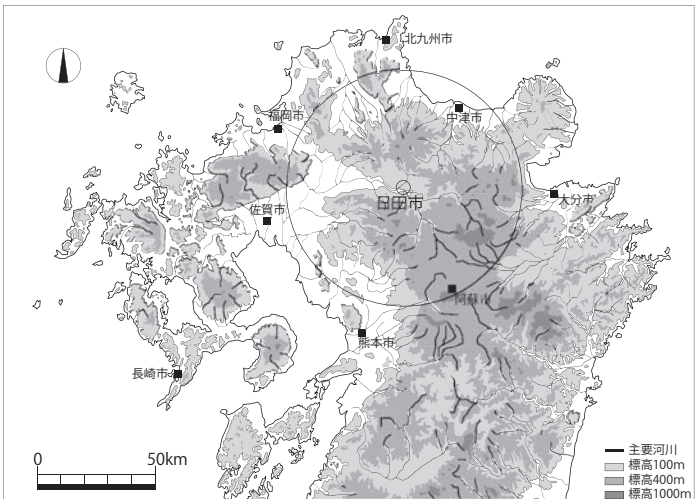
最後になりましたが、作業に従事いただきました皆様方や、調査にご協力いただきました関係者の方々に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月

日田市教育委員会教育長
三笘　眞治郎

例　　言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成 26 年度に実施した「元宮遺跡 5 次調査」の発掘調査報告書である。
2. 調査地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である「元宮遺跡」に含まれるが、調査次数を割り振っているもののなかには試掘調査分が含まれるなど混乱をきたしている。そこで、本報告において、発掘調査届（保護法第 99 条）を提出したものを対象に調査次数の整理を行い、「4・5 次→試掘」、「6 次→ 4 次」に変更するものとする。そのうえで、本調査地は「7 次→ 5 次」調査に変更して報告するものとし、以後既刊分も含めてこの次数に変更するものとする。
3. 調査は福祉施設建設工事に伴い、社会福祉法人翠明会の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
4. 調査現場での実測は (株) 埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託した以外は、調査員及び森山敬一郎（発掘作業員）が行い、写真撮影は担当者が行った。
5. 本書に掲載した遺物実測・遺物写真撮影、遺構・遺物の製図は (株) 九州文化財総合研究所及び雅企画有限会社に委託した成果品を使用した。。
6. 挿図中の方位のうち、遺構図は磁北、第 1 ～ 4・29 図は方眼北を示し、国土座標は世界測地系に基づいている。
7. 写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿図番号に対応する。
8. 出土遺物及び図面・写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 本書の執筆はⅠ・Ⅱは行時、Ⅲ・Ⅳを渡邉が行い、編集は渡邉が担当した。



日田市の位置

大分県の行政地区

本文目次

Ⅰ　調査に至る経過と組織・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ⅲ　調査の記録
（1）調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（2）遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
箱式石棺墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
石蓋土坑墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
土坑墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
その他の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅳ　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

挿図目次

第 1 図　調査区位置図（1/6,000）・・・・・・・・・・・ 1
第 2 図　周辺遺跡分布図（1/20,000）・・・・・・・・・ 2
第 3 図　周辺地形図（1/1,000）・・・・・・・・・・・・ 3
第 4 図　基本土層図（1/40）・・・・・・・・・・・・・ 3
第 5 図　調査区全体図（1/200）・・・・・・・・・・・・ 4
第 6 図　2・8 号石棺墓実測図（1/40）・・・・・・・・・ 5
第 7 図　10・19 号石棺墓実測図（1/40）・・・・・・・ 6
第 8 図　36 号石棺墓実測図（1/40）・・・・・・・・・・ 7
第 9 図　石棺墓出土遺物実測図（1/2、1/4、1/6）・・ 7
第 10 図　1・3 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・・・・ 8
第 11 図　4・5 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・・・・ 9
第 12 図　6・7 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・・・・ 10
第 13 図　9・11 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・・・ 11
第 14 図　12・13 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・・・ 12
第 15 図　14・15・17 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・ 13
第 16 図　16・18 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・・・ 14
第 17 図　20 ～ 22 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・ 15
第 18 図　31・32・35 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・ 16
第 19 図　石蓋土坑墓出土遺物実測図（1/2、1/4）・・・ 16
第 20 図　23・34 号石蓋土坑墓実測図（1/40）・・・・・・ 17
第 21 図　24 ～ 27 号土坑墓実測図（1/40）・・・・・・・ 18
第 22 図　28 ～ 30 号土坑墓実測図（1/40）・・・・・・・ 19
第 23 図　33・37 ～ 39 号土坑墓実測図（1/40）・・・・ 20
第 24 図　40 ～ 46 号土坑墓実測図（1/40）・・・・・・・ 21
第 25 図　土坑墓出土遺物実測図（1/2、1/4）・・・・・ 22
第 26 図　土坑実測図（1/60）・・・・・・・・・・・・・ 23
第 27 図　2 号土坑出土遺物実測図（2/3、1/2、1/4）・・ 24
第 28 図　その他の遺物実測図（2/3、1/2）・・・・・・・ 24
第 29 図　墳墓群配置図（1/400）・・・・・・・・・・・・ 25

本文写真目次

本文写真 1　調査作業風景・・・・・・・・・・・・・・・ 1
本文写真 2　基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

表目次

第 1 表　検出墳墓一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第 2 表　出土土器観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第 3 表　出土石器・金属器観察表 ・・・・・・・・・・・ 26

写真図版目次

巻頭図版
墳墓群全景（東から）
墳墓群遠景（南から）
図版 1
調査区遠景（東から）
調査区全景（上が南西）
図版 2
① 2 号墓検出状況（東から）
② 2 号墓石棺検出状況（北から）
③ 2 号墓完掘状況（北から）
④ 2 号墓副葬品出土状況①
⑤ 2 号墓副葬品出土状況②
⑥ 8 号墓検出状況（南西から）
⑦ 8 号墓石棺検出状況（南西から）
⑧ 8 号墓完掘状況（南西から）
図版 3
① 10 号墓検出状況（北から）
② 10 号墓人骨出土状況（北から）
③ 10 号墓完掘状況（北から）
④ 19 号墓検出状況（南から）
⑤ 19 号墓完掘状況（南から）
⑥ 36 号墓検出状況（南から）
⑦ 36 号墓石棺検出状況（南から）
⑧ 36 号墓完掘状況（南から）
図版 4
① 1 号墓検出状況（東から）
② 1 号墓完掘状況（南から）
③ 3 号墓検出状況（西から）
④ 3 号墓完掘状況（南から）
⑤ 4 号墓検出状況（西から）
⑥ 4 号墓検出状況（西から）
⑦ 5 号墓検出状況（南東から）
⑧ 5 号墓完掘状況（北東から）
図版 5
① 6 号墓検出状況（南東から）
② 6 号墓完掘状況 (南西から）
③ 7 号墓検出状況（北東から）
④ 7 号墓完掘状況（北東から）
⑤ 9 号墓検出状況（南から）
⑥ 9 号墓完掘状況（南から）
⑦ 11 号墓検出状況（北から）
⑧ 11 号墓完掘状況（北から）
図版 6
① 12 号墓検出状況（東から）
② 12 号墓完掘状況（南から）
③ 13 号墓検出状況（南から）
④ 13 号墓完掘状況（南から）
⑤ 14 号墓検出状況（南から）
⑥ 14 号墓完掘状況（南から）
⑦ 15 号墓検出状況（南から）
⑧ 15 号墓完掘状況（東から）
図版 7
① 17 号墓検出状況（東から）
② 17 号墓完掘状況（南から）
③ 16 号墓検出状況（西から）
④ 16 号墓完掘状況（南から）
⑤ 18 号墓検出状況（南から）
⑥ 18 号墓完掘状況（東から）
⑦ 20 号墓検出状況（南東から）
⑧ 20 号墓完掘状況（南東から）
図版 8
① 21 号墓検出状況（南から）
② 21 号墓完掘状況（南から）
③ 22 号墓検出状況（南西から）
④ 22 号墓完掘状況（南西から）
⑤ 31 号墓検出状況（南から）
⑥ 31 号墓完掘状況（南から）
⑦ 32 号墓検出状況（北から）
⑧ 32 号墓完掘状況（北から）
図版 9
① 35 号墓検出状況（北から）
② 35 号墓完掘状況（北から）
③ 23 号墓検出状況（南東から）
④ 23 号墓完掘状況（南東から）
⑤ 34 号墓検出状況（北から）
⑥ 34 号墓完掘状況（北から）
⑦ 24 号墓検出状況（南東から）
⑧ 24 号墓完掘状況（北から）
図版 10
① 25 号墓検出状況（東から）
② 25 号墓完掘状況（東から）
③ 26 号墓検出状況（東から）
④ 26 号墓完掘状況（南から）
⑤ 27 号墓検出状況（北から）
⑥ 27 号墓完掘状況（南から）
⑦ 28 号墓完掘状況（南から）
⑧ 29 号墓検出状況（東から）
図版 11
① 29 号墓完掘状況（東から）
② 29 号墓遺物出土状況
③ 30 号墓検出状況（東から）
④ 30 号墓完掘状況（東から）
⑤ 30 号墓副葬品出土状況
⑥ 29・30 号墓完掘状況（南から）
⑦ 33 号墓検出状況（南東から）
⑧ 33 号墓完掘状況（南東から）
図版 12
① 37 号墓検出状況（北東から）
② 37 号墓完掘状況（北東から）
③ 37 号墓副葬品出土状況
④ 38 号墓完掘状況（南西から）
⑤ 39 号墓完掘状況（南から）
⑥ 40 号墓完掘状況（南東から）
⑦ 41 号墓完掘状況（北東から）
⑧ 42 号墓完掘状況（南から）
図版 13
① 43 号墓完掘状況（東から）
② 44 号墓完掘状況（南から）
③ 45 号墓検出状況（北から）
④ 45 号墓完掘状況（南から）
⑤ 46 号墓検出状況（南西から）
⑥ 1 号土坑完掘状況（東から）
⑦ 2 号土坑検出状況（南東から）
⑧ 2 号土坑土層①
図版 14
① 2 号土坑土層②
② 2 号土坑完掘状況（南から）
③ 2 号土坑遺物出土状況①
④ 2 号土坑遺物出土状況②
⑤ 2 号土坑遺物出土状況③
⑥ 2 号土坑遺物出土状況④
⑦ 1 号溝完掘状況（北西から）
⑧ 2 号溝検出状況（南から）
図版 15　出土遺物
図版 16　出土遺物

Ⅰ　調査に至る経過と組織

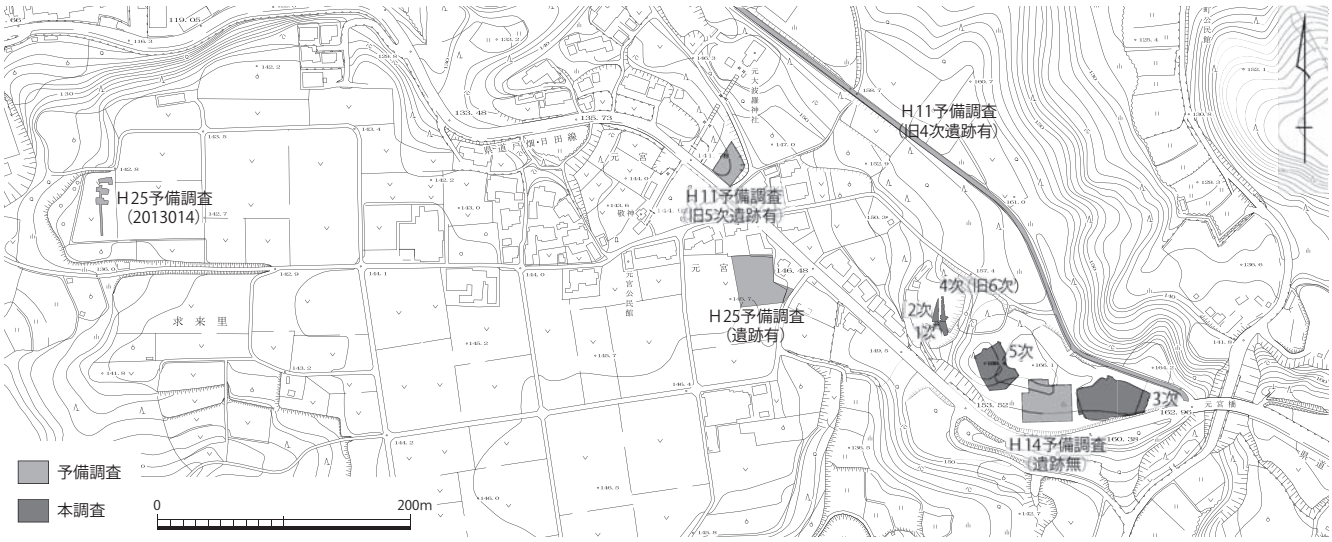
平成 25 年 9 月 18 日付けで社会福祉法人翠明会より市教育委員会あてに、日田市大字求来里字堂園 605-1 ほか 5 筆について福祉施設建設工事に先立つ埋蔵文化財の所在に関する照会文書（事前審査番号 2013049）が提出された。この開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である元宮遺跡に該当し、開発対象地に隣接する福祉施設建設や近隣での土取工事の際に遺跡が確認されており、対象地に遺跡が存在する可能性が非常に高いことが予想されたことから、その取扱いについて協議が必要である旨の文書回答を行った。その後 10 月 3 日には予備調査依頼が提出され、これを受けて 10 月 17 ～ 21 日に重機と作業員による予備調査を実施した。その結果、現地表面から約 40 ～ 90 ㎝の深さで石棺墓や土坑墓、土器片などが確認され、遺跡の存在が明らかとなった。予定地の造成は全面が切土工法となることから遺跡の保存が困難であると判断し、造成地全面を対象とした発掘調査の実施に向けて開発主と協議を重ねた。その結果、平成 26 年 4 月 8 日に事業主との委託契約を取り交わし、4 月 14 日から 8 月 7 日までの間、発掘調査を実施した。また平成 27 年 10 月 16 日から平成 28 年 1 月 12 日の間整理作業を実施し、平成 28 年度に報告書作成を行った。現地での発掘調査の経過は次のとおりである。

写真 1　調査作業風景

4 月 14 日　重機による表土除去・遺構検出開始
4 月 15 日　作業員による遺構検出および遺構掘り下げ開始　強粘性の赤土と少雨による乾燥に苦慮
5 月 27 日　調査補助業務開始（株式会社 埋蔵文化財サポートシステム 大分支店に委託）
6 月 13 日　空撮実施
8 月　7 日　器材撤収、現地での作業完了

なお、平成 26 ～ 28 年度の調査組織は次のとおりである。

調査主体　　日田市教育委員会
調査責任者　合原多賀雄（日田市教育長：～ 26 年 6 月）、三笘眞治郎（同教育長：26 年 7 月～）
調査統括　　財津俊一（文化財保護課長:26 年度）、柴尾健二（同課長:27 年度）池田寿生（同課長:28 年度）
調査事務　　園田恭一郎（同埋蔵文化財主幹：～ 27 年 9 月）古賀信一（同主幹：27 年 10 月～）
　　諫山温子（同主事：26・27 年度）、若杉竜太（同主査・試掘担当）、上原翔平（同主任）
調　査　員　行時桂子（同主査・調査担当）、渡邉隆行（同主査）
発掘作業員　秋吉新六、江藤キミ子、加藤祐一、河津モリ、北澤幾子、財津真弓、原田善人、松下宣男
　　宮木博幸、森山敬一郎
整理作業員　髙瀬真奈美、武石和美、用松　操、吉田里美



第 1 図　調査区位置図（1/6,000）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

元宮遺跡は、日田盆地東部の「元宮原」と呼ばれる阿蘇４火砕流堆積物により形成された台地上に位置し、台地のほぼ全体が元宮遺跡として周知されている。この台地の南側は三隈川（筑後川）による沖積地、東側は求来里川により開析された谷が形成されている。調査対象地は台地東部の高まりにあり、遺跡のなかでは最も高い場所にあたる。台地上は大部分が畑地として利用されており、調査対象地近辺の高い部分には集落や福祉施設、酪農施設などがある。畑地はかつては多少の起伏があったが、昭和 30 年代頃の農業基盤整備事業によりに平らに削られ、このときに弥生時代中期の土器や後期の甕棺墓などの墓地が発見されたといわれており、少なくとも弥生時代から生活の場として利用されていたようである。古代律令下においては『豊後国風土記』記載の日田郡五郷の一つで日下部氏の拠点とされる靭編郷に属したと考えられ、遺跡中ほどには貞観元(859)年創建とされる元大原神社が鎮座するなど､記録にも残る開けた土地であったことが想像される。

元宮遺跡ではこれまでに６回の調査が行われている。1・2・4 次調査は今回の調査箇所の東隣で土砂採取工事伴って実施され、弥生時代後期後半～古墳時代と考えられる石棺墓・石蓋土坑墓・甕棺墓・木棺墓・土坑墓が確認されている。甕棺墓からは熟年以上男性の人骨、石蓋土坑墓からは成年後半男性の人骨が出土している。3 次調査は今回の調査箇所と同一敷地内の西隣で福祉施設建設に伴って実施され、古墳時代と考えられる箱式石棺墓・石蓋土坑墓・土坑墓、時期不明の方形周溝状遺構のほか、頂部に釈迦如来を示す梵字の彫り込みのある笠塔婆が立てられた中世の塚が確認されている。この笠塔婆は元大原神社境内に移設され、市有形文化財に指定されている。台地上の予備調査では、平成 11 年の市道建設に伴う調査で近現代の土坑、駐車場造成では古代の瓦や土師器が出土し、平成 25 年度の予備調査で中世の生活遺構が確認され、台地西端の畑地で行われた調査では、耕作土直下から盛土を失った片袖横穴式石室を備えた周溝直径約 20 mの 6 世紀後半の古墳が確認されている。

元宮遺跡の周囲を概観すると、遺跡の南側の小台地や谷には東寺原遺跡（6)･古金遺跡（7)･日高遺跡（10）などがあるが、様相は不明である。対して、小谷を隔てて西の丘陵には鳥羽塚古墳（4)・会所山古墳（3)・装飾古墳 1 基を含む 7 基の円墳からなる法恩寺山古墳群（5）など多くの小円墳が集中している。

《参考文献》『日田市史』日田市　1990　ほか日田市教育委員会発行の関係遺跡報告書など

第２図　周辺遺跡分布図（1/20,000）

Ⅲ　調査の記録

（1）調査の概要（第 3 ～ 5 図）

調査対象地は老人福祉施設の来客や職員用の駐車場として利用されていたため、丘陵ではあるものの立木などはなく砕石が敷かれ、一部には既存建物建設の際の廃土が盛られていた。予備調査では現地表面からの深さ約 40 ～ 90 ㎝で弥生～古墳時代と考えられる石棺墓・土坑墓などが確認されており、丘陵のうち建物位置にあたる部分を削平する建設計画のため、建物予定地全体を調査対象（820 ㎡）とした。調査はまずこの砕石を除去し、最も高い部分にあたる調査区西側から低い南東側に向かって重機により表土除去を行い、廃土は調査区外へ搬出した。薄い表土層から 20 ㎝程度の深さで褐色粘質土が検出され（第 4 図）、この層を地山面と判断した。標高の高い部分では表土の直下で石蓋や遺構と思われる暗褐色土が次々と確認され、最終的には調査区の北側約 1/3 の範囲に石棺墓 5 基、石蓋土坑墓 23 基、土坑墓 18 基の計 46 基の墓群が集中して検出された。また墓群からやや離れた調査区中心あたりでは大きな不定形のくぼみ状を呈する 2 号土坑が、調査区東端では浅い溝状遺構が 2 条検出された。これら以外の部分については、遺構の存在は確認されなかった。

以下、検出された遺構および出土遺物の説明を行う。

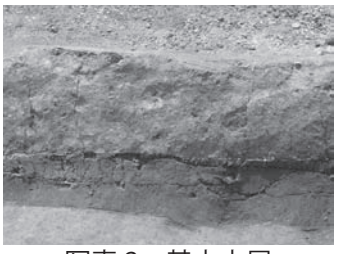
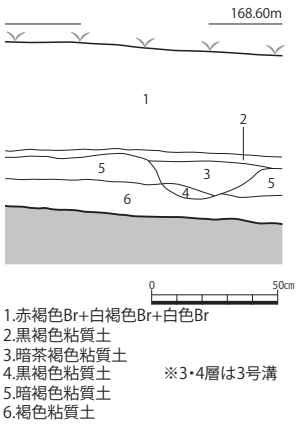


写真 2　基本土層

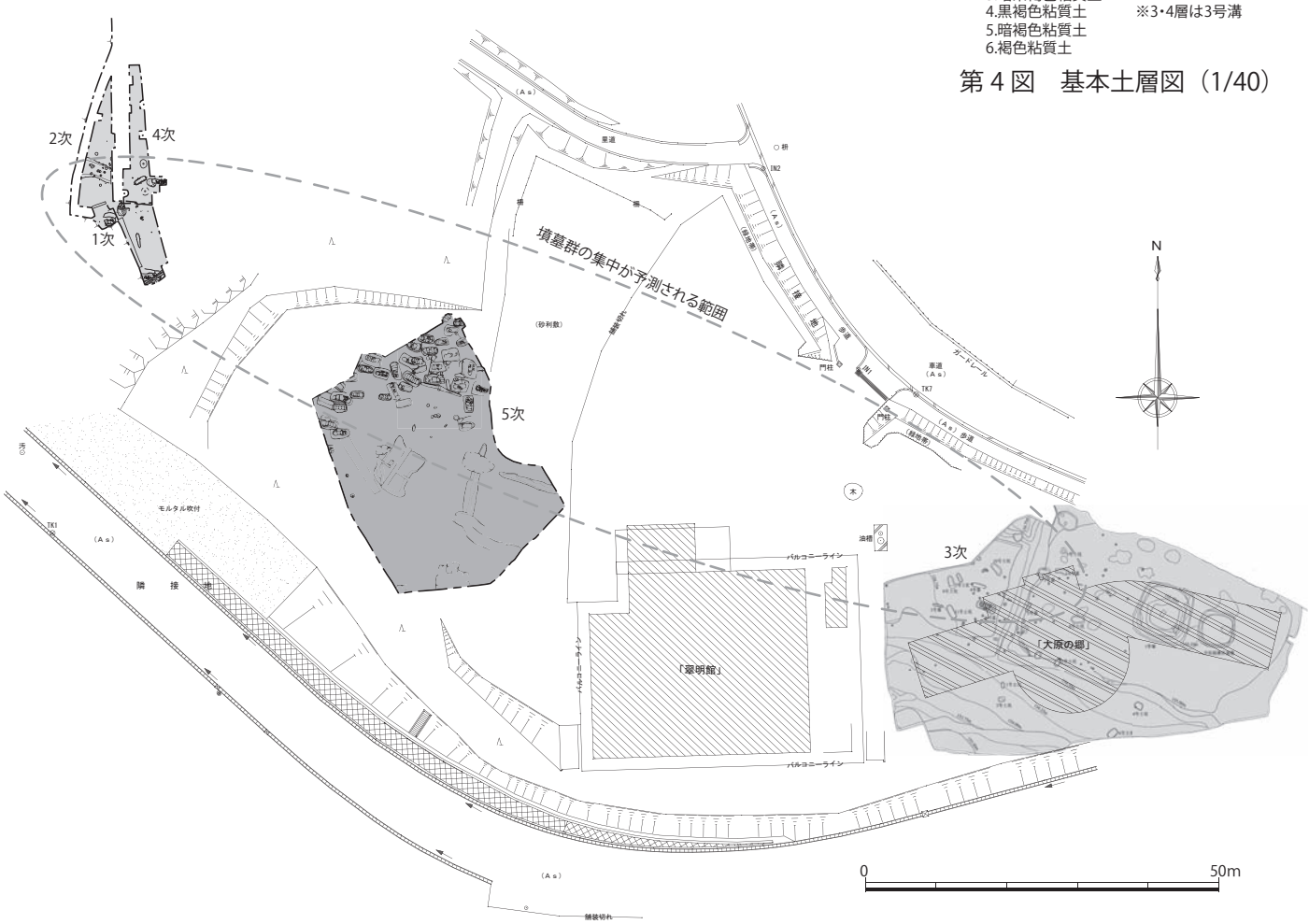


第 4 図　基本土層図（1/40）

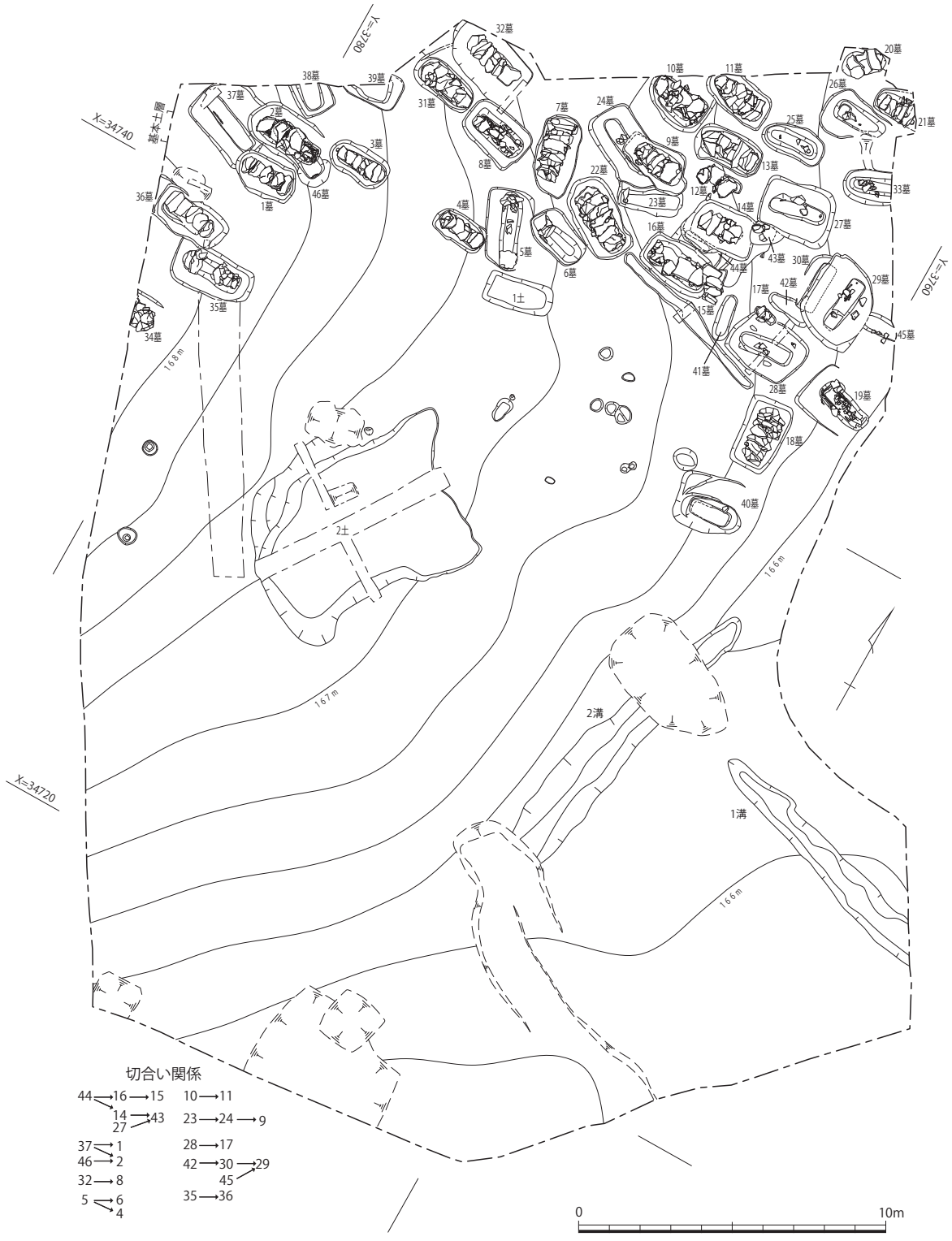
（2）遺構と遺物（第 4 ～ 28 図）

箱式石棺墓（第６～９図、写真図版２・３）

2・8・10・19・36 号墓が該当する。いずれも 2 段掘りの墓壙を呈し、主体部床面は地山成形であった。このうち、8 号は土圧等により蓋石が転落した状態で、19



第 3 図　周辺地形図（1/1,000）



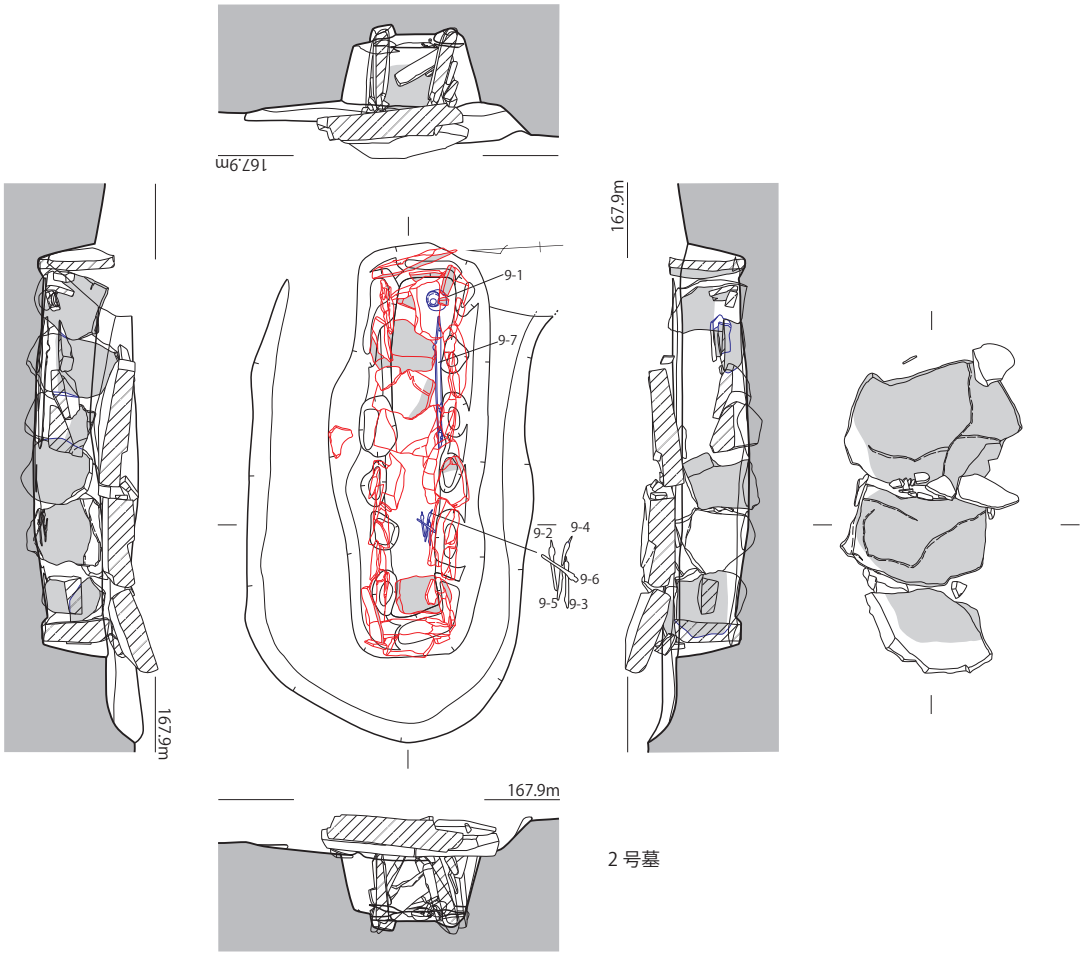
第 5 図　調査区全体図（1/200）

号は上部と南東側の削平により蓋石と側壁の多くを失っていた。

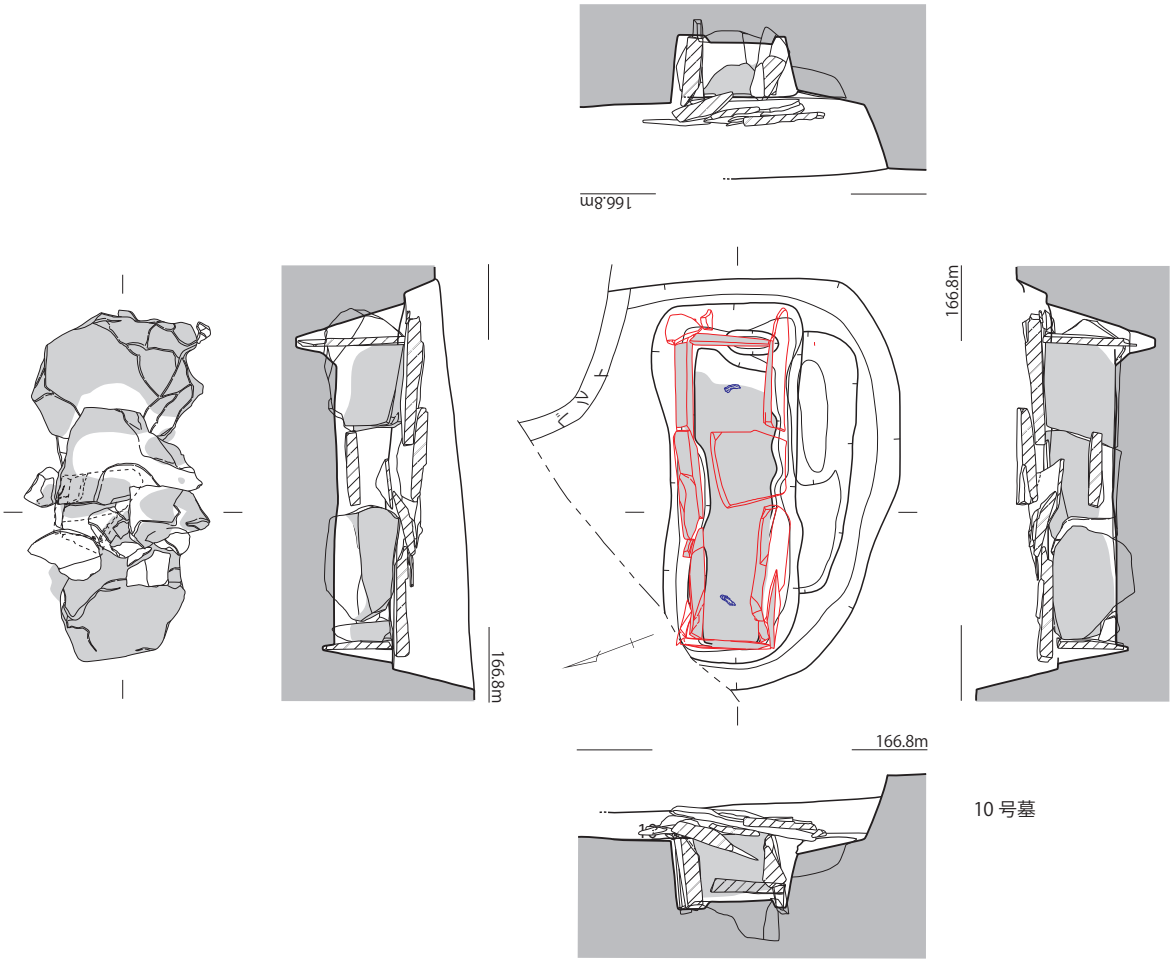
2 号墓（第 6 図）は 37・46 号墓を切っている。側壁・蓋石内面に赤色顔料を塗布していた。人骨の残存は見られないものの、主体部内の頭位（東側）左には須恵器瑞 1、左手沿いに鉄刀 1、左足部に鉄鏃 5 点を埋葬していた。

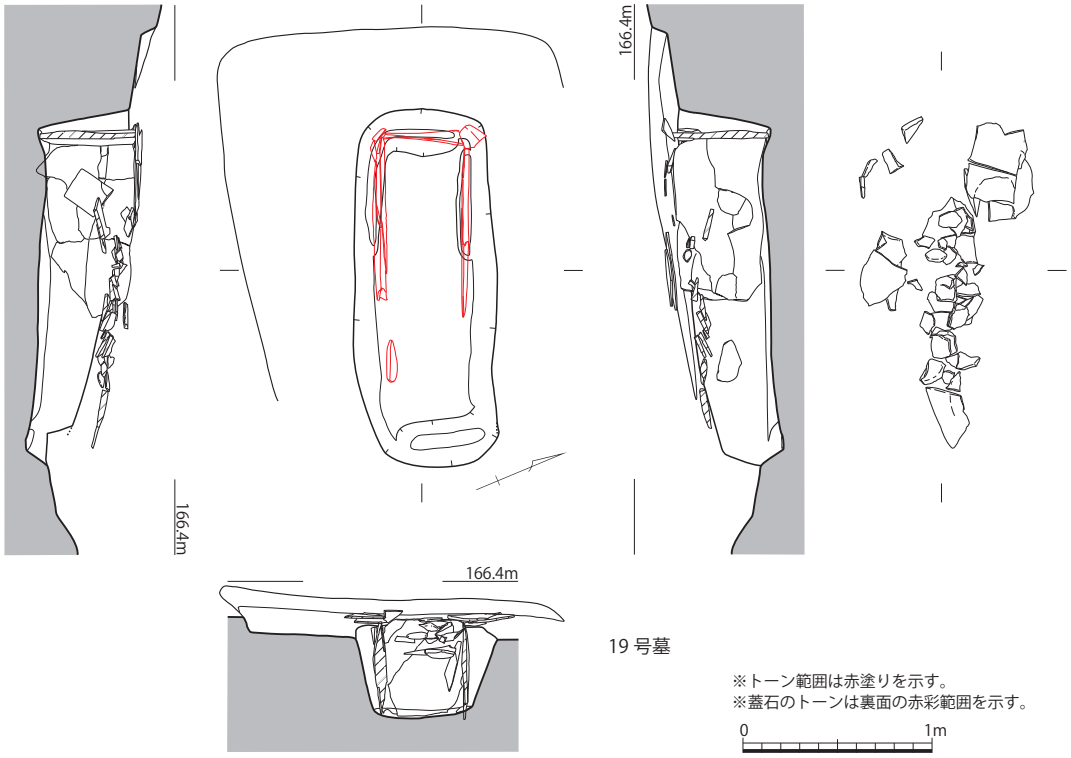
8 号墓（第 6 図）は 32 号墓を切っている。床面を掘りすぎてしまっており、本来の床面は 10 ㎝程上である。

10 号墓（第 7 図）は 11 号墓に切られ、南側中位の側壁が内側に倒れていた。主体部全面と蓋石内面に赤色顔料の塗布が認められた。さらに頭位付近に頭蓋骨頭頂部付近、足付近に骨片が認められたが、性別年齢などを判

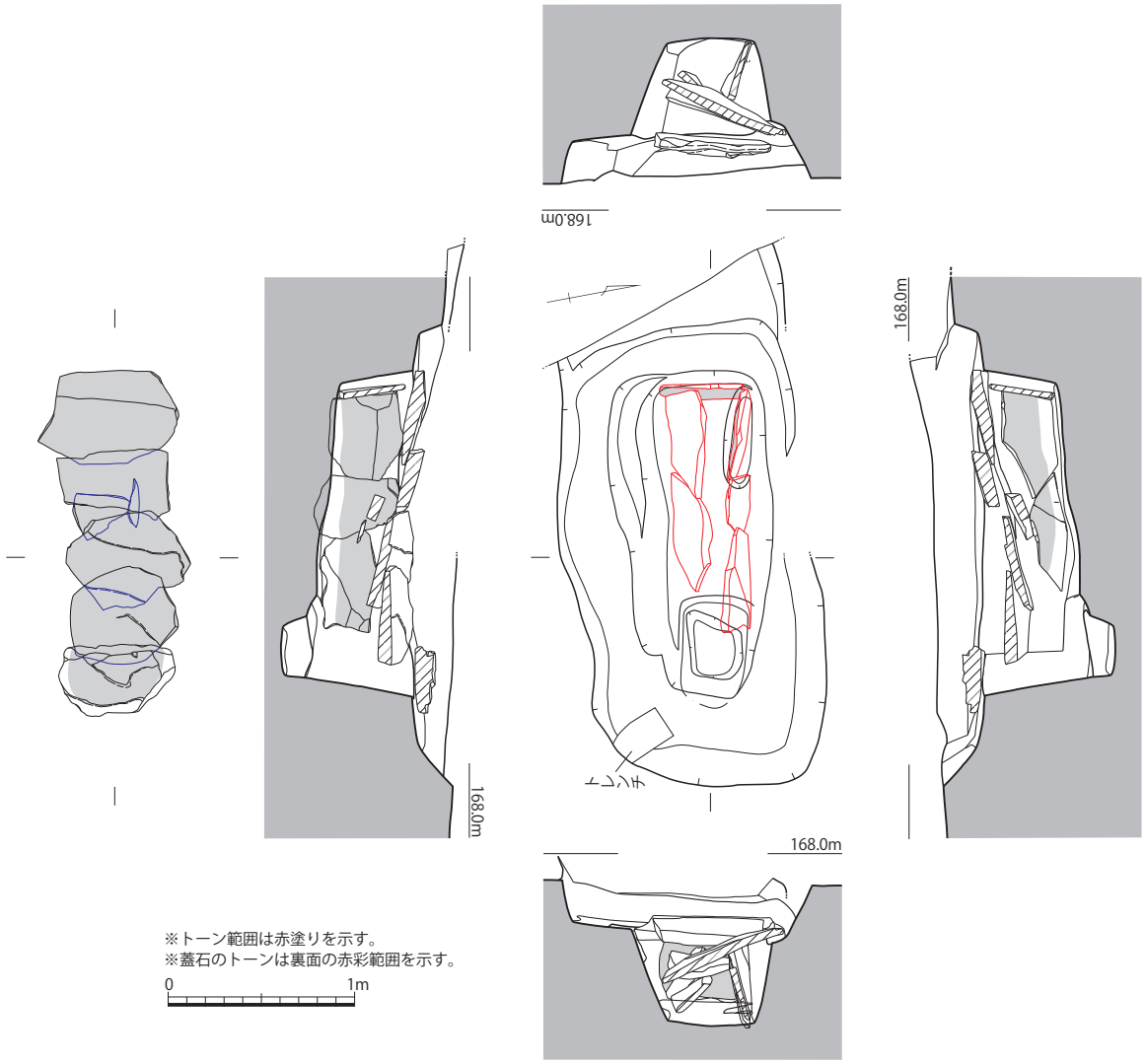


第 6 図　2・8 号石棺墓実測図（1/40）

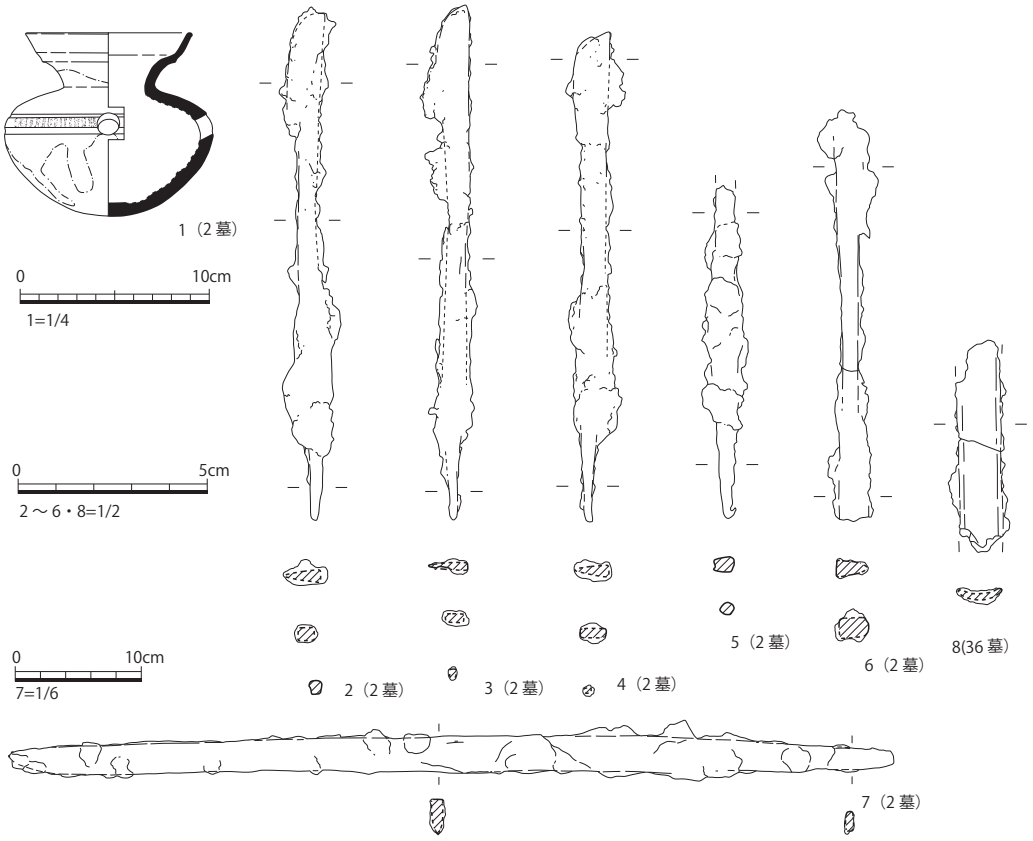




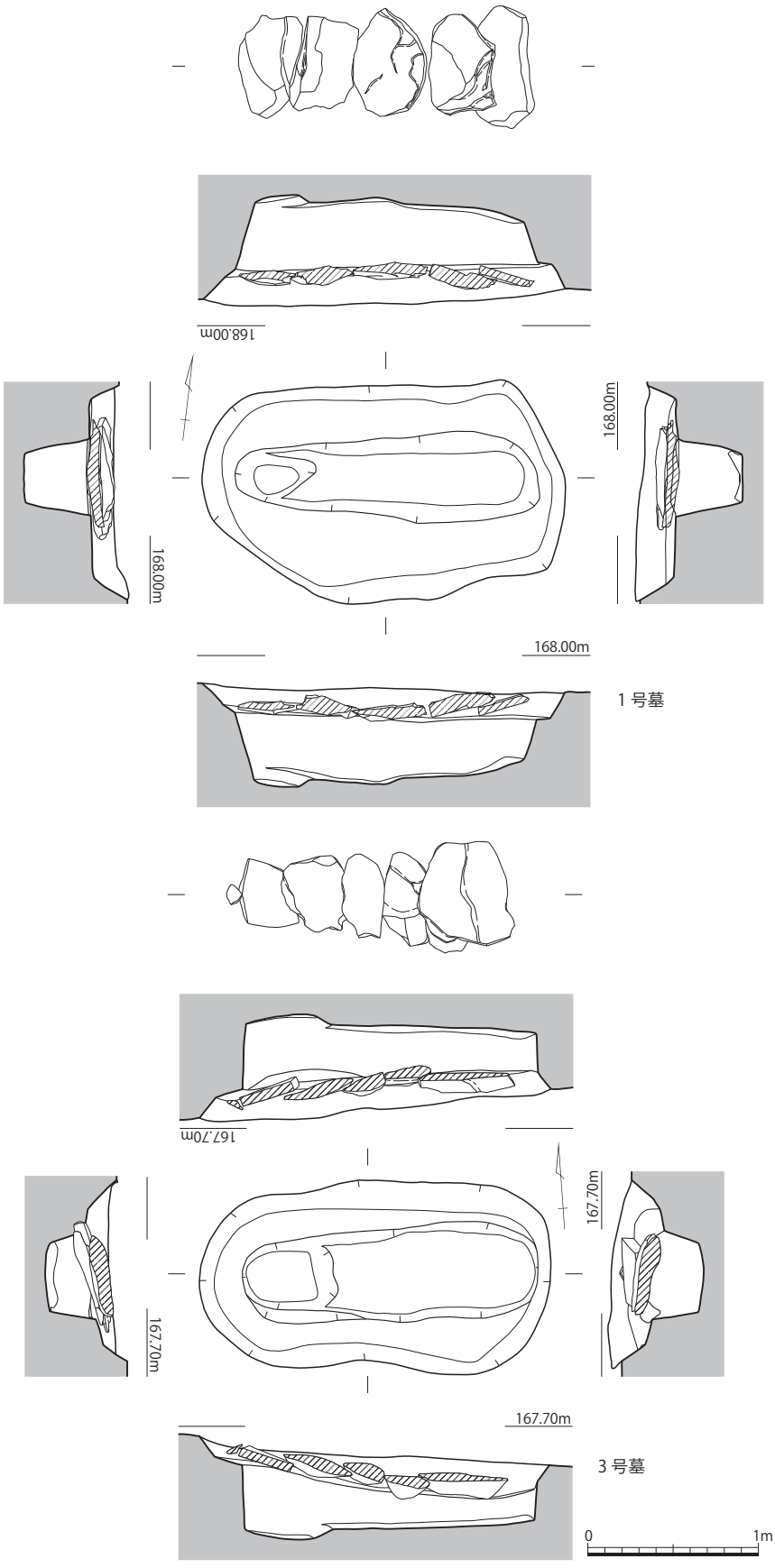
第 7 図　10・19 号石棺墓実測図（1/40）



第 8 図　36 号石棺墓実測図（1/40）



第 9 図　石棺墓出土遺物実測図（1/2、1/4、1/6）



第 10 図　1・3 号石蓋土坑墓実測図（1/40）

定することは不可能であった。主体部の南側には長さ 98 ㎝ほどの掘り込みが認められ、石棺墓構築前に作られた主体部の可能性が考えられる。

19 号墓（第 7 図）は南東側が大幅な削平を受けており、蓋石の大部分と側壁の半分を失っていた。

36 号墓（第 8 図）は 35 号墓を切っており、側壁及び蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。床面は若干掘りすぎているものの、足元部分は堀込が認められる。主体部からは鉇の破片が確認された。

石蓋土坑墓

（第 10 ～ 20 図、写真図版 6 ～ 9）

1・3 ～ 7・9・11 ～ 18・20 ～ 23・31・32・35 号墓が該当する。いずれも 2 段掘りの墓壙で、主体部は地山成形である。このうち 5・6・23 号墓は鎧重ねの蓋石の大部分を削平により失っていたが、残存する蓋石が主体部直上にのっていることなどから石蓋土坑墓と判断した。

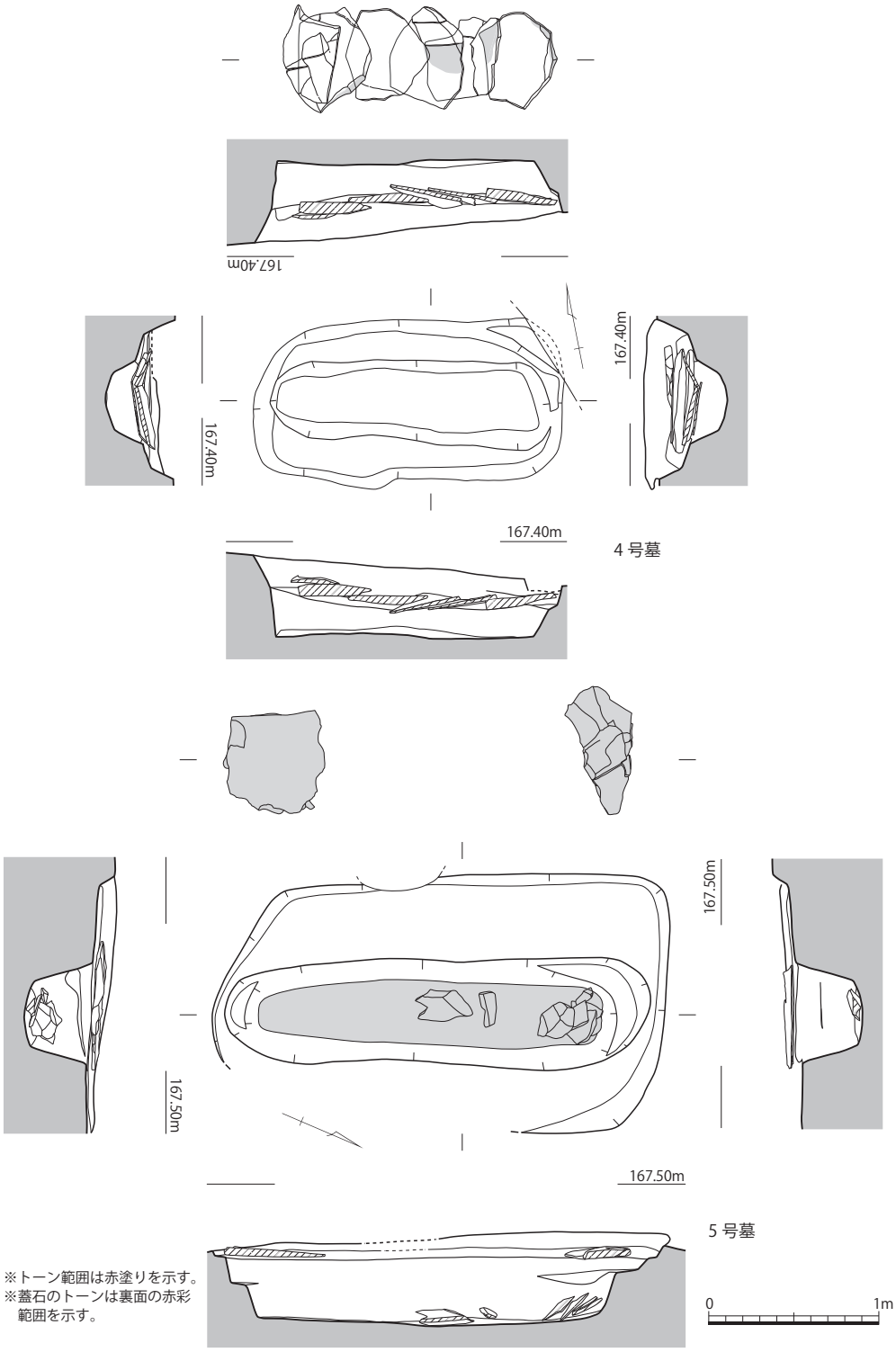
1 号墓（第 10 図）は 37 号墓を切っており、主体部足元部分に掘り込みが見られる。

3 号墓（第 10 図）は 46 号墓に隣接し、主体部足元部分に掘り込みが見られる。

4 号墓（第 11 図）は 5 号墓を切っており、蓋石内面の一部に赤色顔料の塗布が認められた。

5 号墓（第 11 図）は 4 号墓に切られ、石蓋の大半は主体部内に崩落していた状態であった。石蓋内面及び主体部に赤色顔料の塗布が認められた。

6 号墓（第 12 図）は 5 号墓を切り、蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。



第 11 図　4・5 号石蓋土坑墓実測図（1/40）

7 号墓（第 12 図）は蓋石内面に赤色顔料の塗布が認められた。

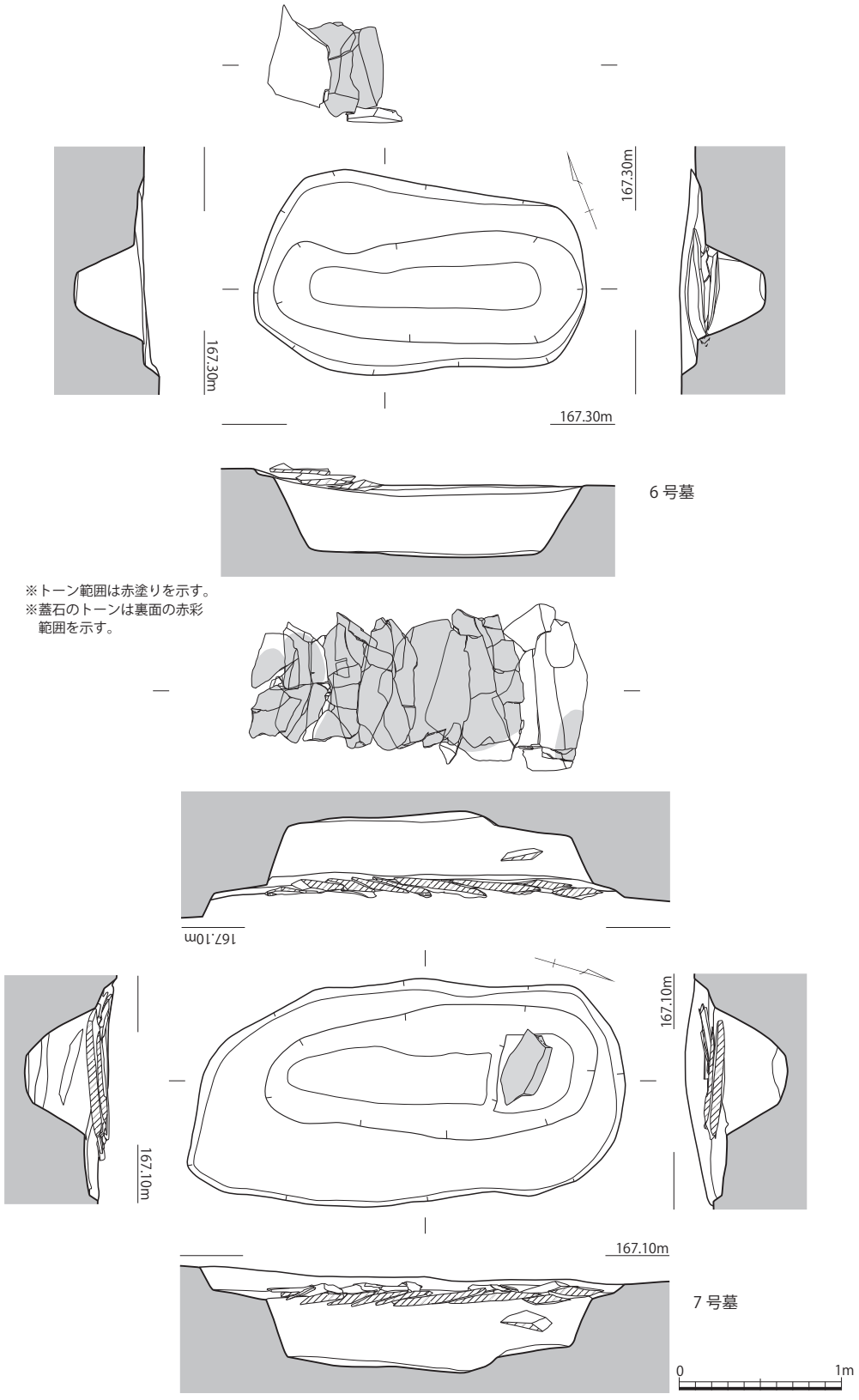
9 号墓（第 13・19 図）は 23・24 号墓を切っており、主体部頭位付近より浮いた状態で鉇 1 点が出土した。

11 号墓（第 13 図）は 10 号墓を切っており、一部が調査区外にかかっている。石蓋内面に赤色顔料が認められた。

12 号墓（第 14 図）は 13・14 号墓に挟まれた小児墓で足元が掘り込まれる。段掘部は判然としなかった。

13 号墓（第 14 図）は 12 号墓に隣接し石蓋内面及び主体部に赤色顔料の塗布が認められた。

14 号墓（第 15 図）は 12 号墓に並列し 44 号墓を切り、43 号墓に切られる。主体部の足元が小さく掘り込まれる。

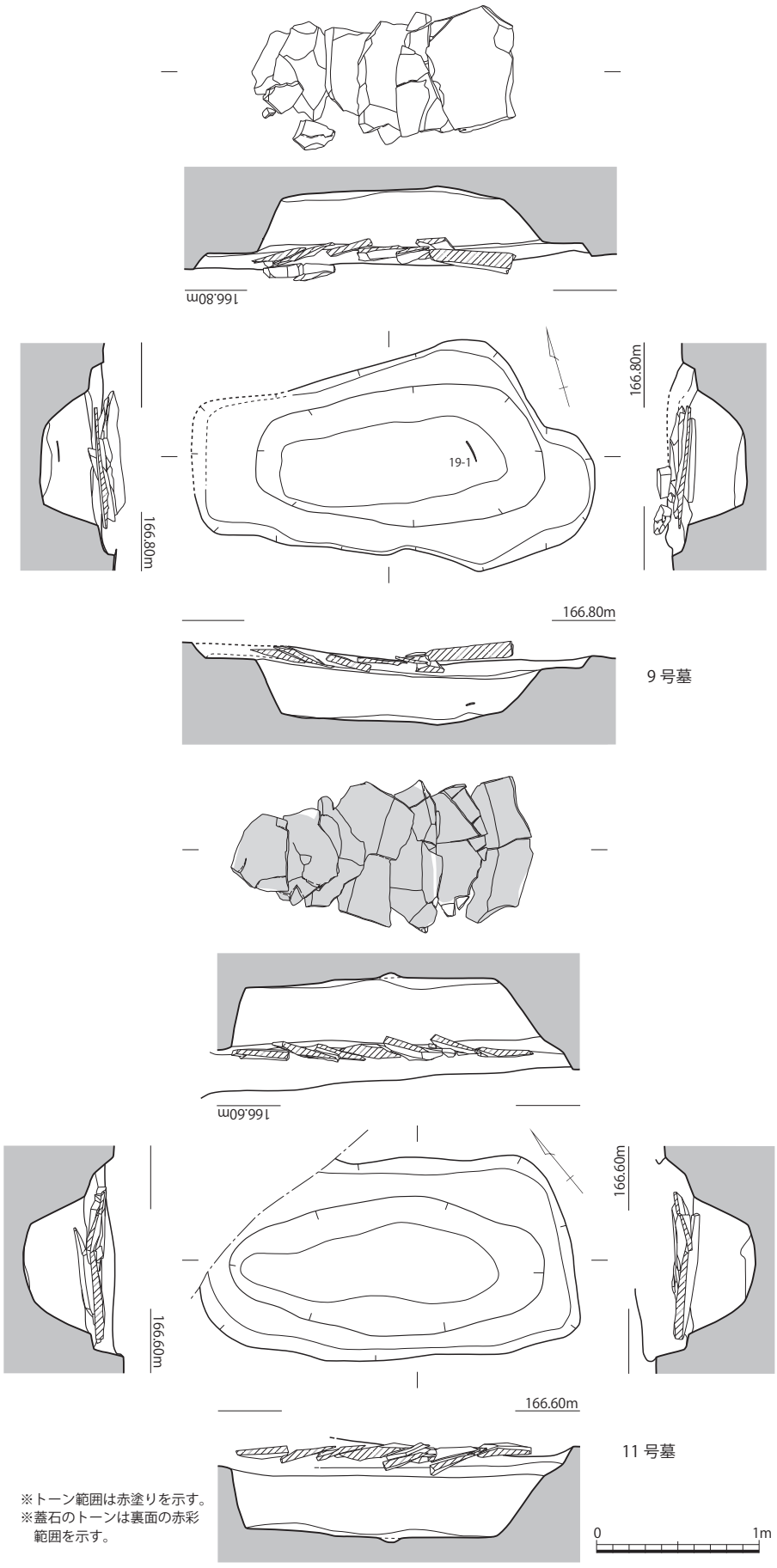


第 12 図　6・7 号石蓋土坑墓実測図（1/40）

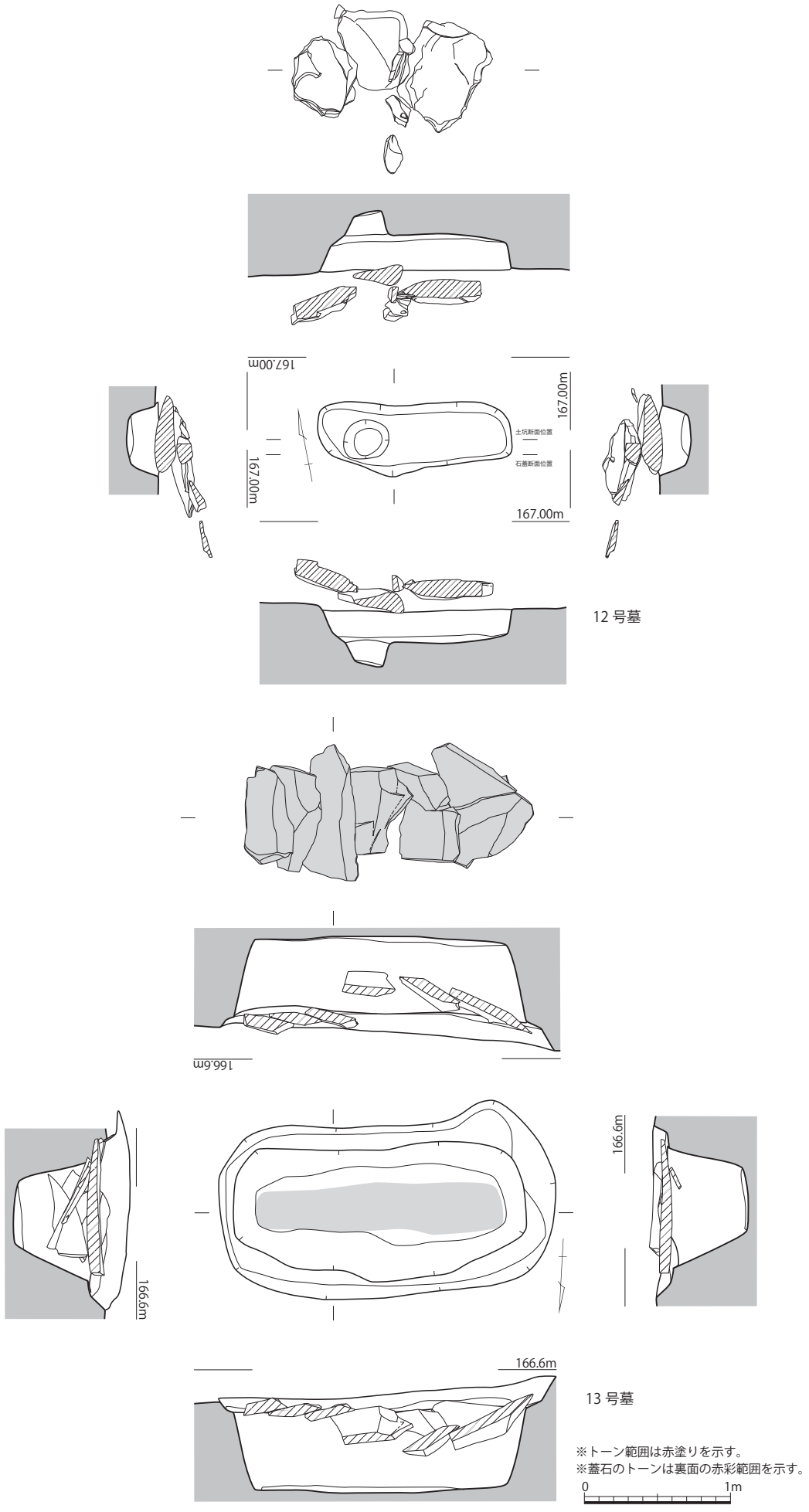
15 号墓（第 15 図）は 16 号墓を切る小児墓で、段掘墓壙は削平を受けていた。

16 号墓（第 16 図）は 44 号墓を切り 15 号墓に切られる。蓋石内面の中心部は赤色顔料がはげ落ち、主体部床面に赤色顔料が塗布されていた。

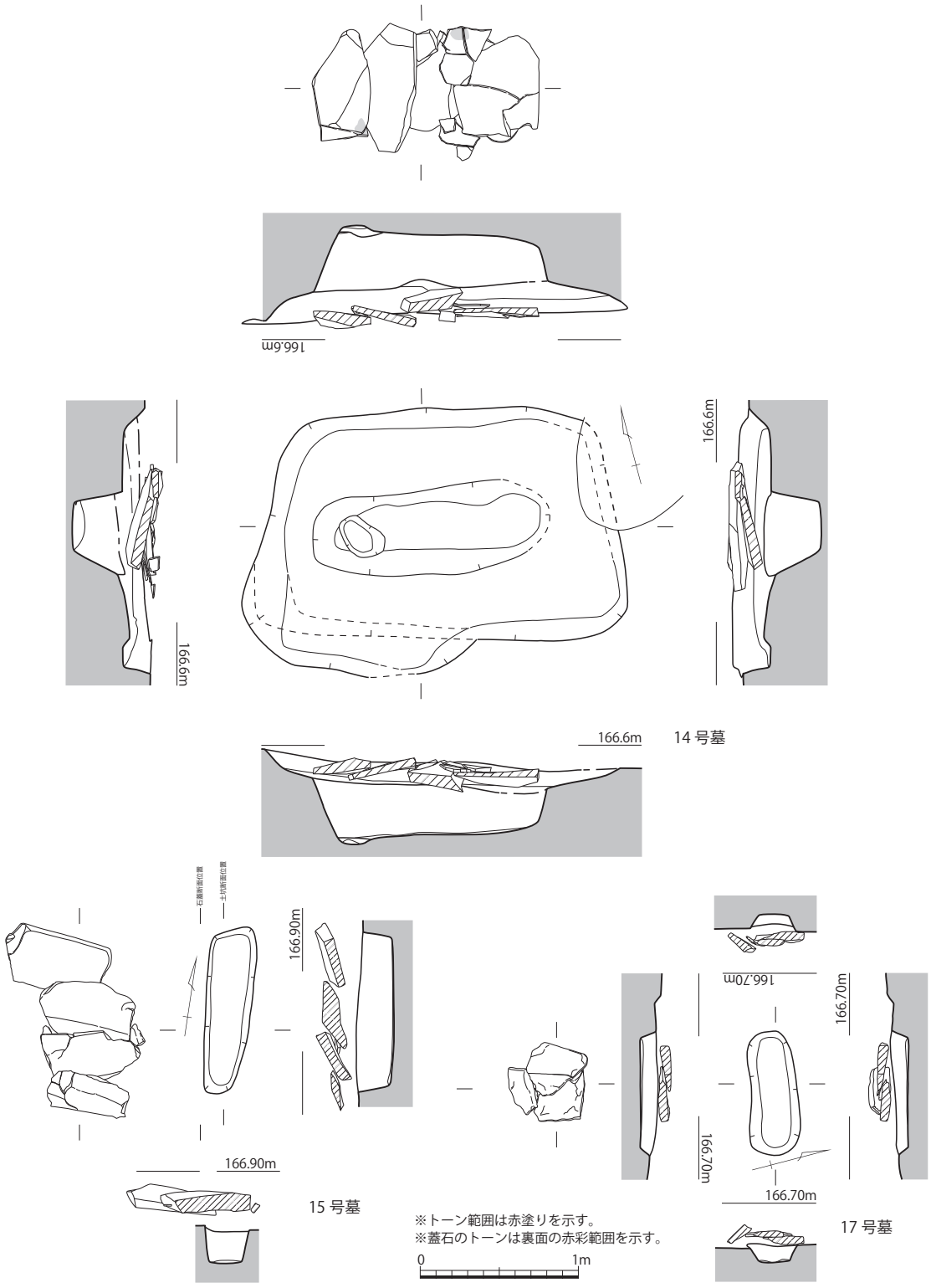
17 号墓（第 15 図）は 28 号墓を切る小児墓である。



第 13 図　9・11 号石蓋土坑墓実測図（1/40）



第 14 図　12・13 号石蓋土坑墓実測図（1/40）

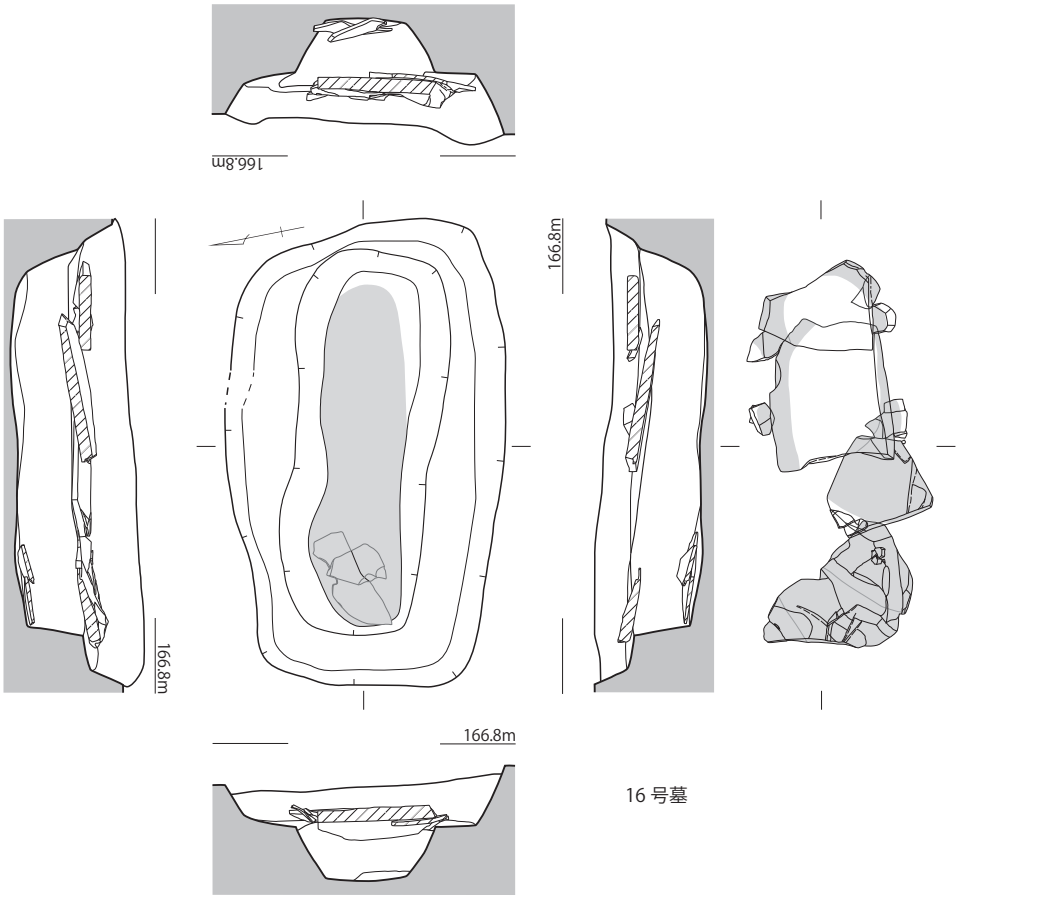


第 15 図　14・15・17 号石蓋土坑墓実測図（1/40）

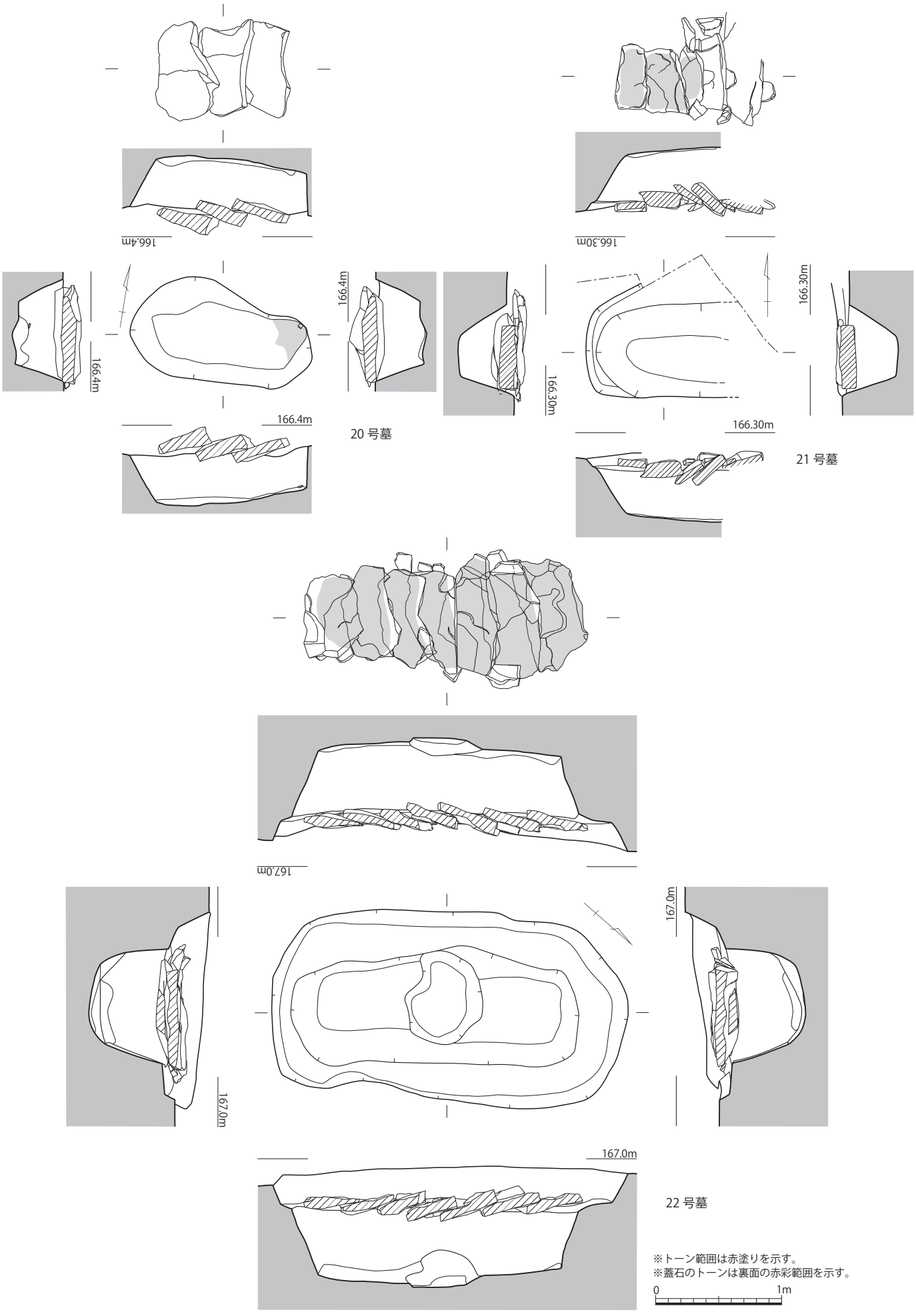
18 号墓（第 16・19 図）は蓋石が割れて崩落していたが、蓋石内面の中心部は赤色顔料がはげ落ち、主体部床面に赤色顔料が塗布されていた。埋土からは高坏の破片 1 点が出土した。

20 号墓（第 17 図）は調査区北端で検出された遺構で一部が調査区外にかかっている。主体部頭部付近床面に赤色顔料が見られた。

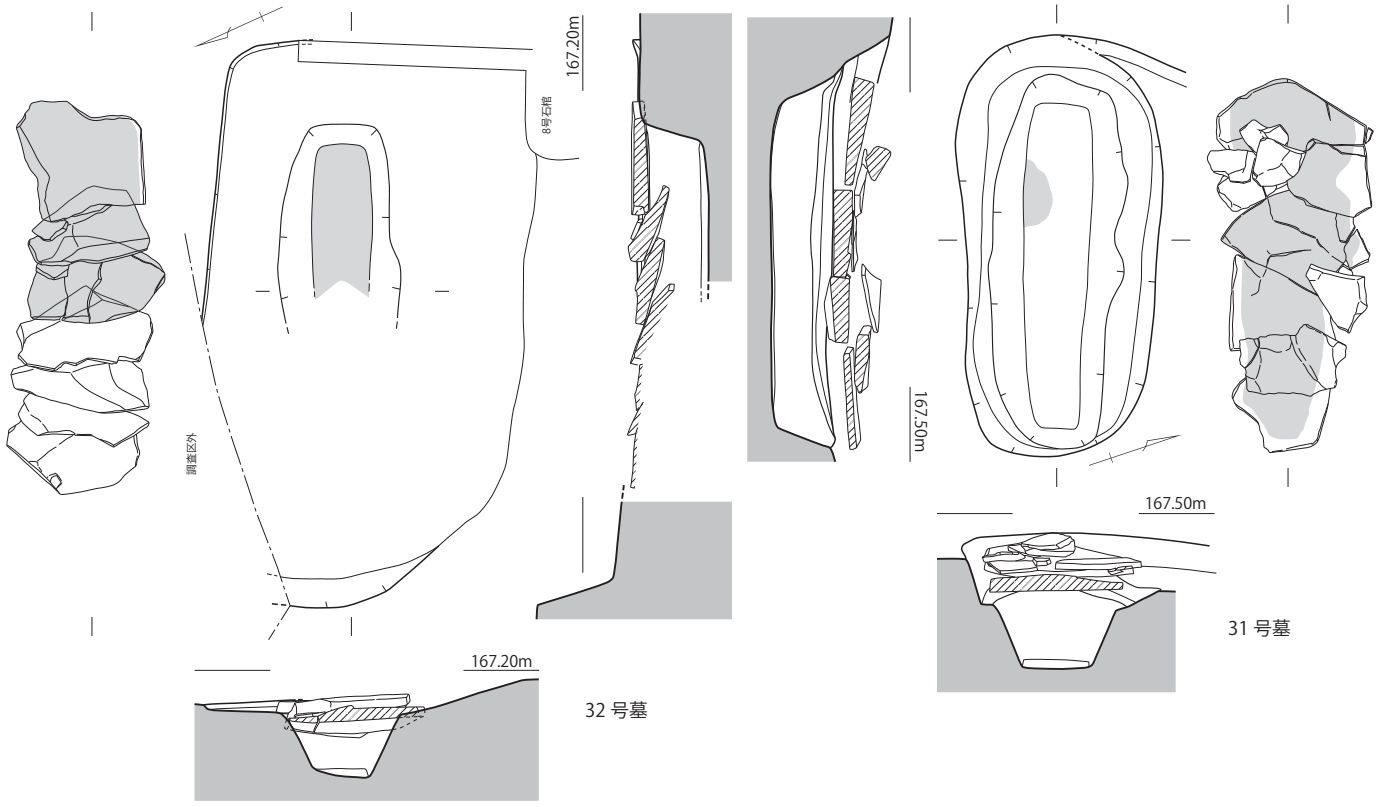
21 号墓（第 17 図）は調査区北端で検出された遺構で大半が調査区外にかかっている。蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。

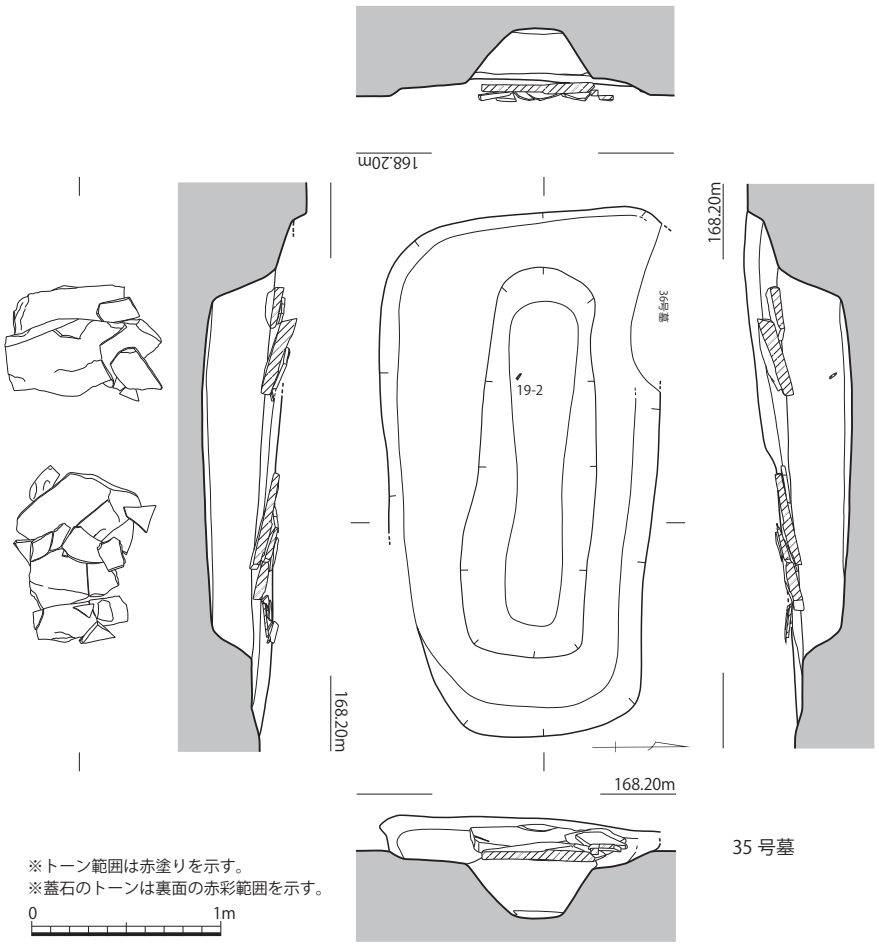


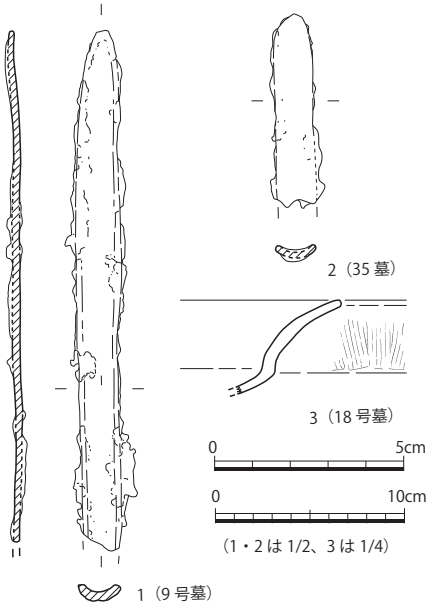
第 16 図　16・18 号石蓋土坑墓実測図（1/40）



第 17 図　20 ～ 22 号石蓋土坑墓実測図（1/40）

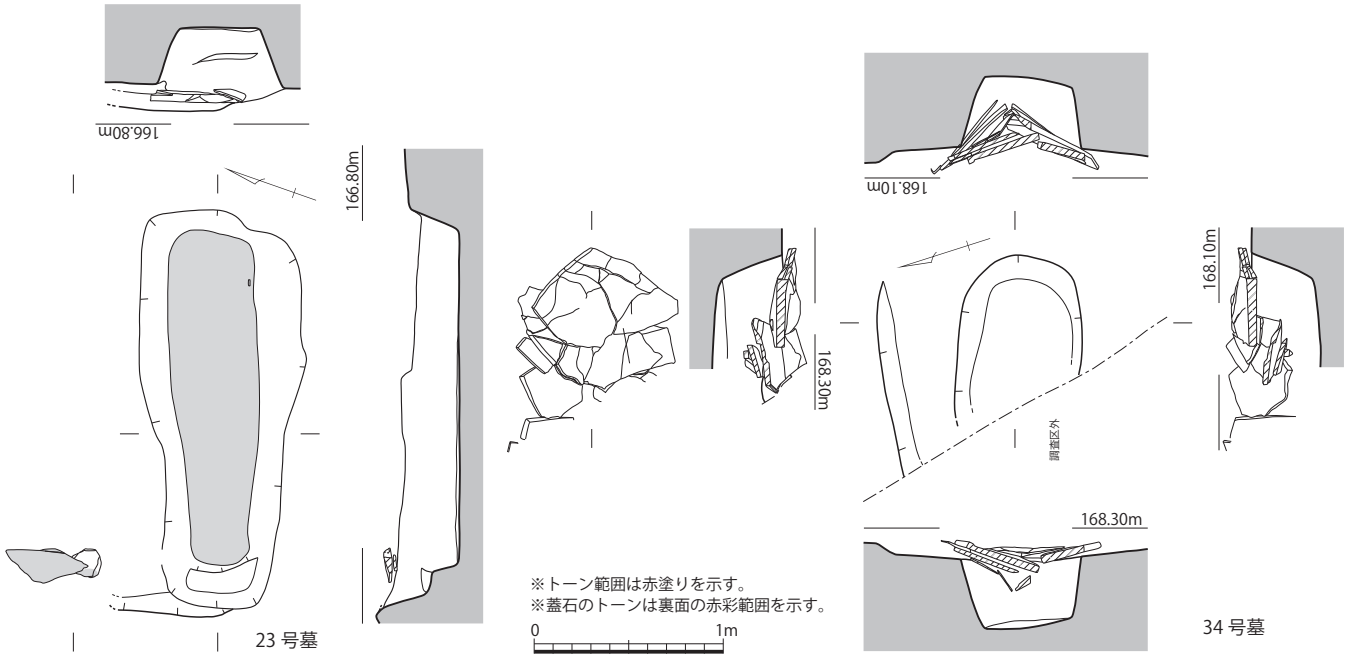






第 19 図　石蓋土坑墓出土遺物実測図（1/2、1/4）

第 18 図　31・32・35 号石蓋土坑墓実測図（1/40）



第 20 図　23・34 号石蓋土坑墓実測図（1/40）

22 号墓（第 17 図）は蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。

23 号墓(第 20 図)は 9･24 号墓に切られ､蓋石の大半を失っていた｡主体部床面には赤色顔料の塗布が認められた。

32 号墓（第 18 図）は 8 号墓を切り、調査区北端にかかっており破損の及ぶ箇所の調査を行った。蓋石内面及び主体部床面に赤色顔料の塗布が認められた。

31 号墓（第 18 図）は 32 号墓に並列しており、蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。

34 号墓（第 20 図）は調査区東端で検出され、大半が調査区外にかかっている。

35 号墓（第 18・19 図）は 36 号墓に切られており、頭部床面より浮いた状態で鉇 1 点が出土した。

土坑墓（第２１～２５図、図版９～１３）

24 ～ 30、33、37 ～ 46 号墓が該当する。2 段掘りのものが殆どであるが、41・42・43・46 は削平のため判然としない。このうち、24 ～ 30・33・40・43 号墓は墓壙上部に浮いた状態か主体部内に板石が転落した状態であったため蓋石とは判断せず、土坑墓の標石と判断した。

24 号墓（第 21 図）は 9 号墓に切られ、23 号墓を切る。主体部中央部に大型の板石が転落し、両小口部に赤色顔料が認められた。

25 号墓（第 21 図）は主体内に小型の板石が転落していた。

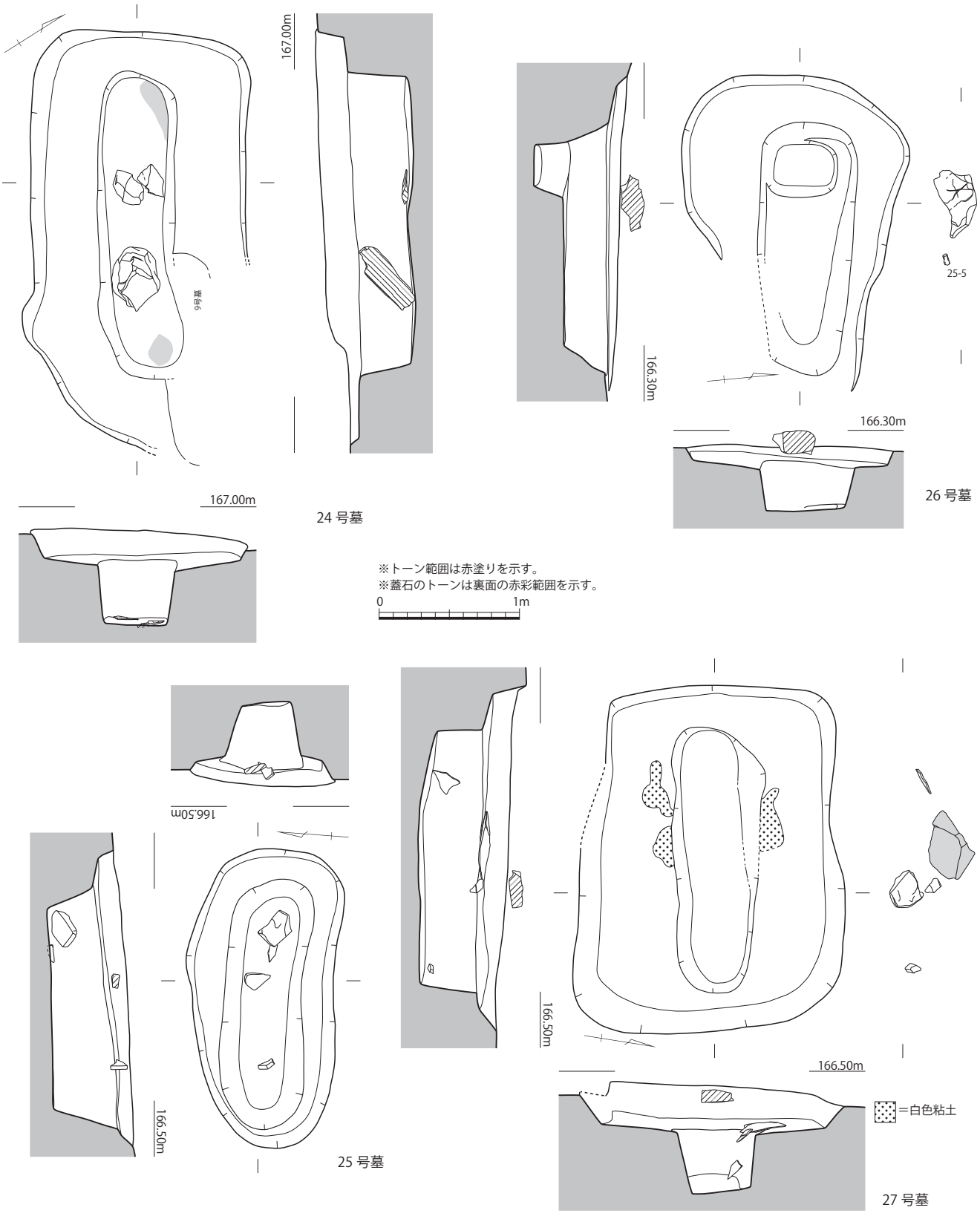
26 号墓(第 21･25 図)は掘り方内に板石が一枚置かれていた。主体部頭位の掘り込みは掘りすぎの可能性がある。掘り方部の標石傍からは鉄斧 1 点が出土した。

27 号墓（第 21 図）は 43 号墓を切り、掘り方上部に標石と思われる板石が一枚置かれていた。主体部中央部北端には板石が 1 枚置かれ、裏面に朱が塗られていた。主体部周囲には目貼粘土が残存しており、木蓋と石蓋の併用であった可能性が考えられる。

28 号墓（第 22 図）は 17 号墓に切られ､板石が複数点転落しており､主体部床面には赤色顔料が塗布されていた。

29 号墓（第 22 図）は 30･45 号墓を切っており､掘方に板石が複数点置かれ､複合口縁壺の破片 1 点が出土した。主体部は足元に掘り込みがされ、頭位部分には赤色顔料が塗布されていた。頭位西側には素環頭刀 1 点が切っ先を下にして副葬され、中位では鉄鏃 1 点が出土した。

30 号墓（第 22 図）は 45 号を切り、29 号墓に切られ、掘り方に板石複数点が置かれ、主体部足元に掘り込み

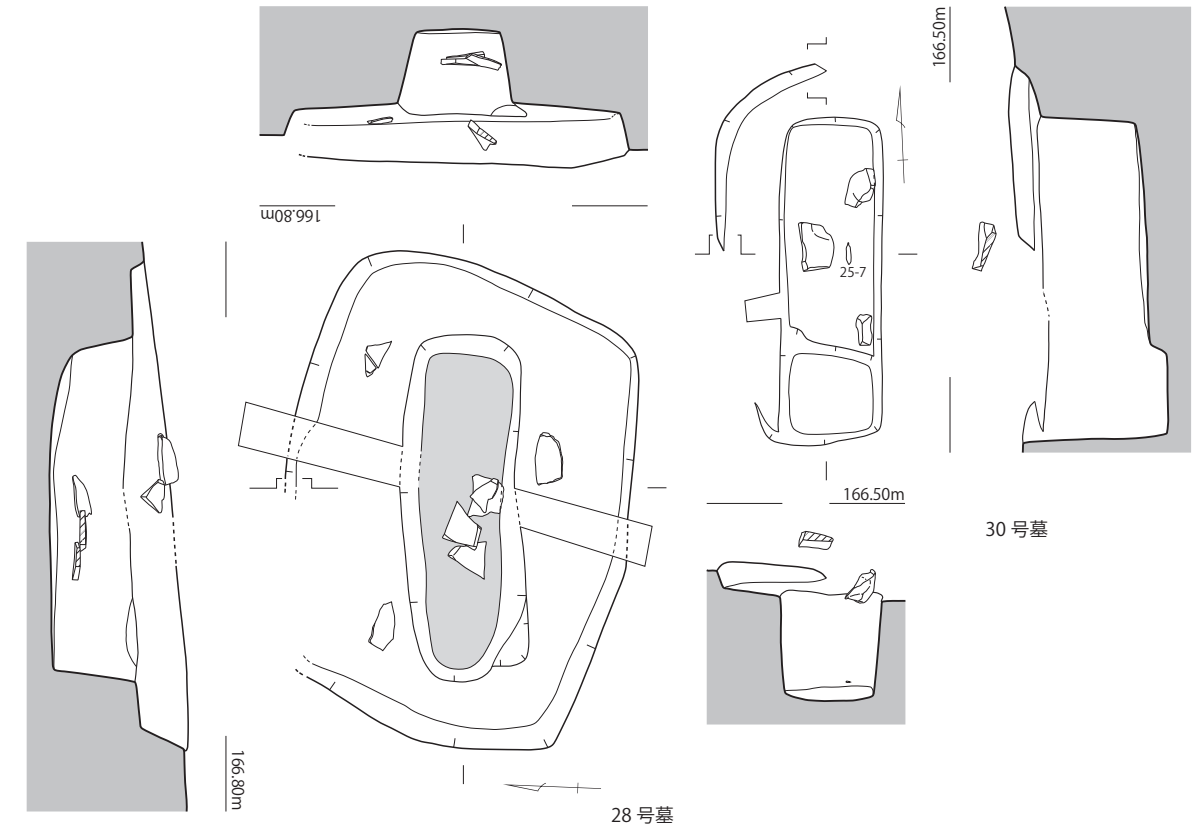


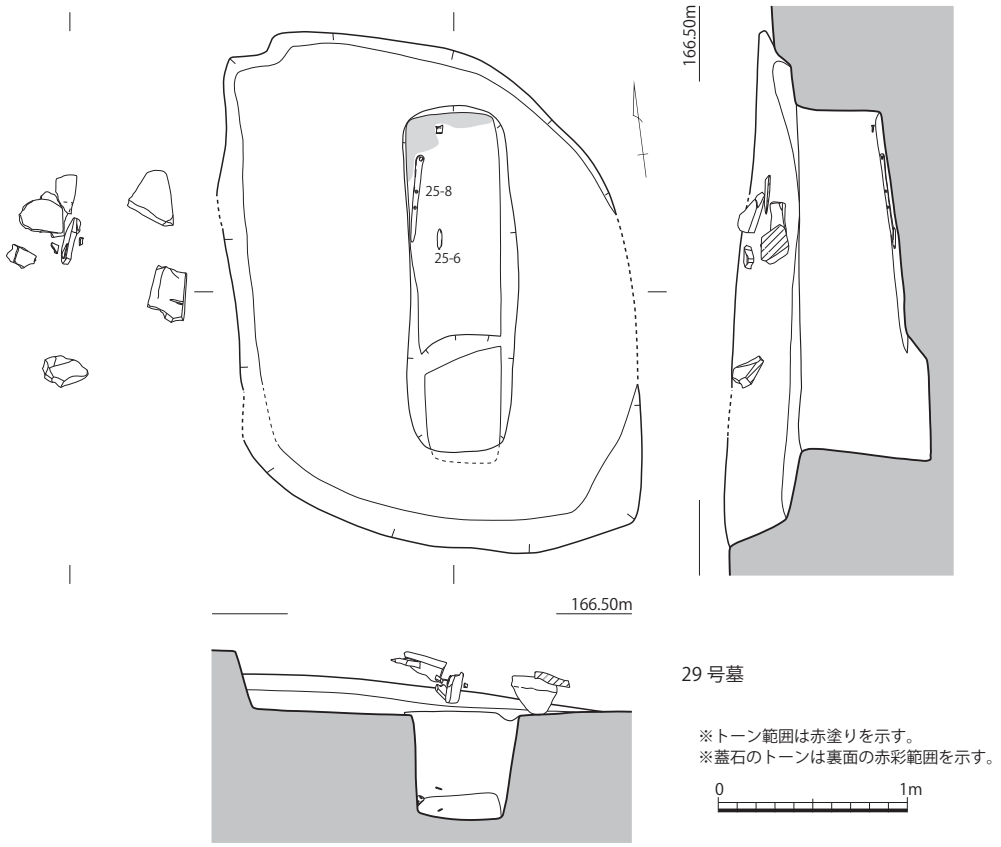
第 21 図　24 ～ 27 号土坑墓実測図（1/40）

がなされていた。主体部中位からはやや浮いた状態で鉄鏃が出土した。

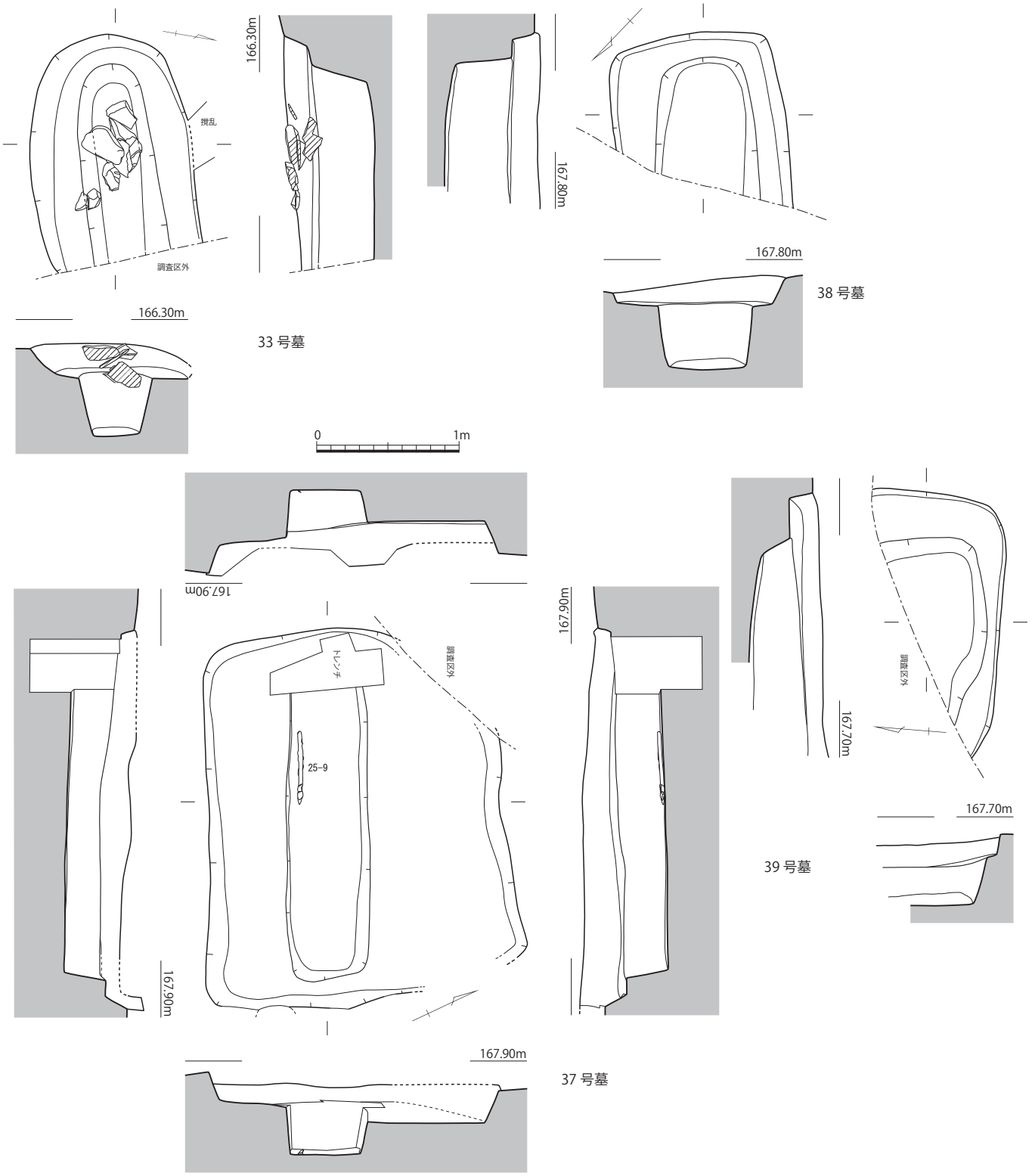
33 号墓（第 23 図）は調査区北端にあり、大半が調査区外に広がる。掘り方西側に複数点の小型板石が固まって置かれていた。

37 号墓（第 23 図）は 1・2 号墓に切られ、一部が調査区外にかかっている。主体部南西側に鉄刀が切先を上に





第 22 図　28 ～ 30 号土坑墓実測図（1/40）



第 23 図　33・37 ～ 39 号土坑墓実測図（1/40）

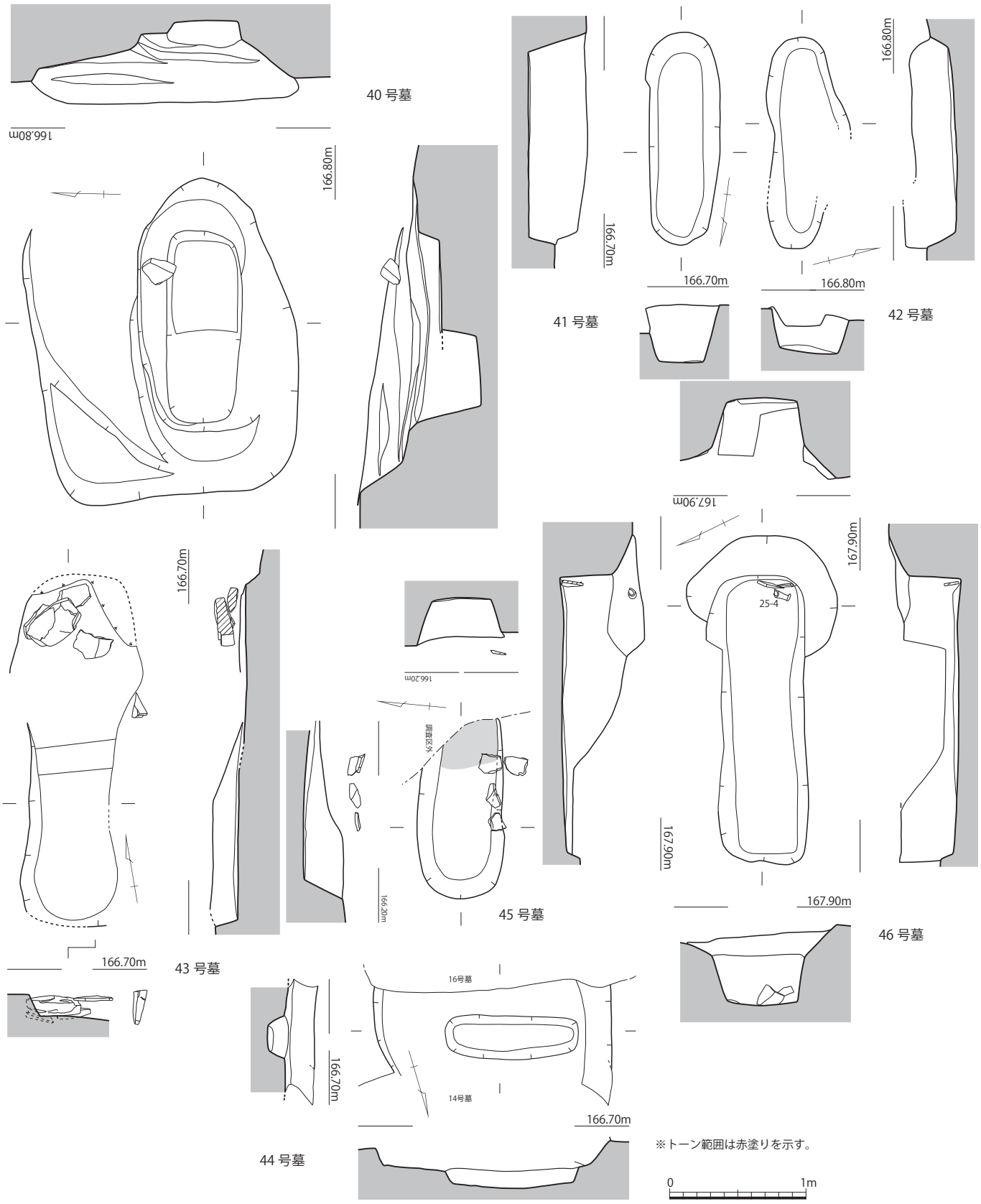
して 1 点副葬されていた。そのほか埋土中からは甕の底部が出土している。

38 号墓（第 23 図）は 2 号墓に隣接し、大半が調査区外にかかっていた。

39 号墓（第 23 図）は 38 号墓に並列し、大半が調査区外にかかっていた。

40 号墓（第 24 図）は 18 号墓に近接し、掘り方に対し主体部が南側に寄っていた。

41 号墓（第 24 図）は 28 号墓に近接し、主体部のみ残存していた。小児用墓か。

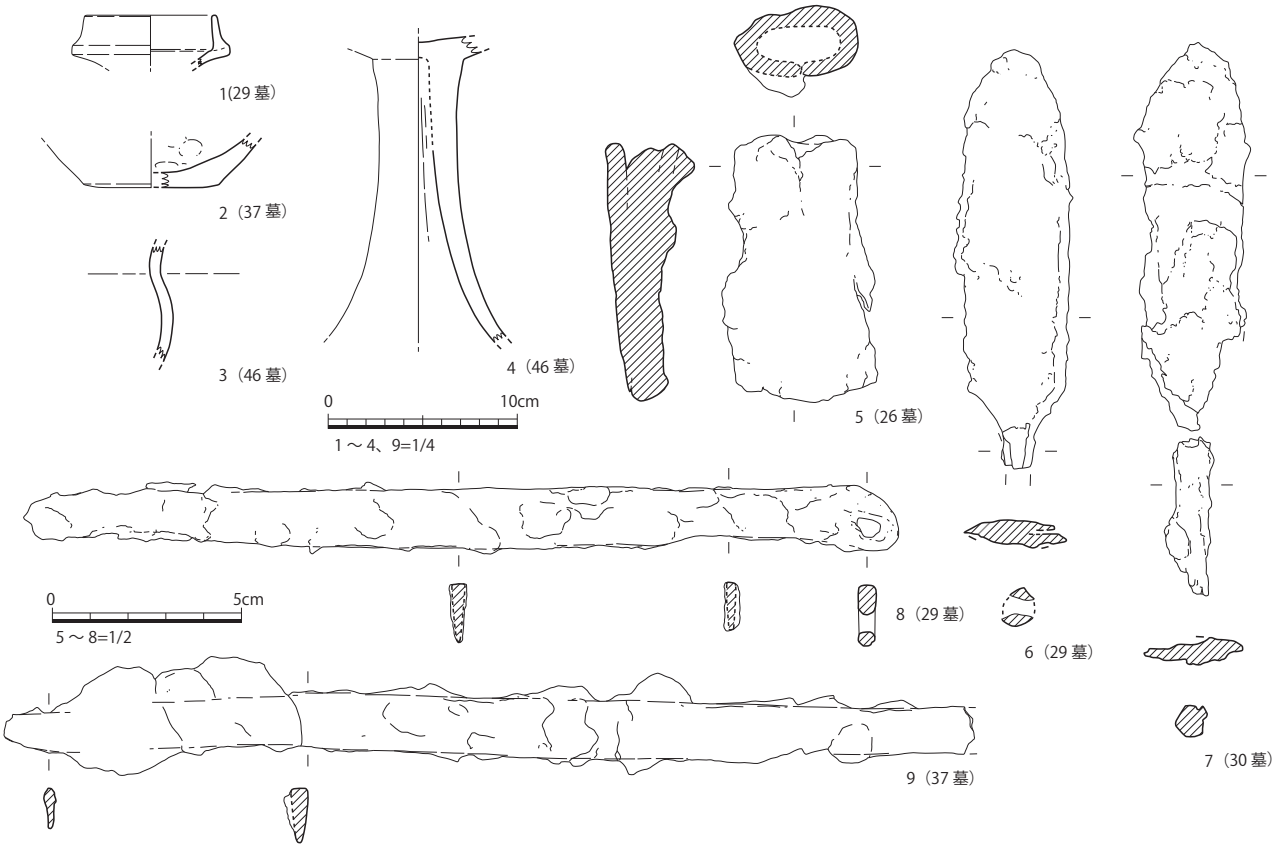


第 24 図　40 ～ 46 号土坑墓実測図（1/40）

42 号墓（第 24 図）は 30・29 号墓に切られ、主体部のみ残存していた。小児用墓か。

43 号墓（第 24 図）は 14・27 号墓に切られ、北側に標石が残存していた。

44 号墓（第 24 図）は 14・16 号墓に切られている小児用墓である。



第 25 図　土坑墓出土遺物実測図（1/2、1/4）

45 号墓（第 24 図）は 29 号墓に切られ、大半が調査区外にかかっている。主体部中央部に赤色顔料が見られた。46 号墓（第 24 図）は 2 号墓に切られており、掘り方南東端より高坏脚部 1 点が出土し、埋土からは小型丸底壺の胴部破片 1 点が出土した。

土坑

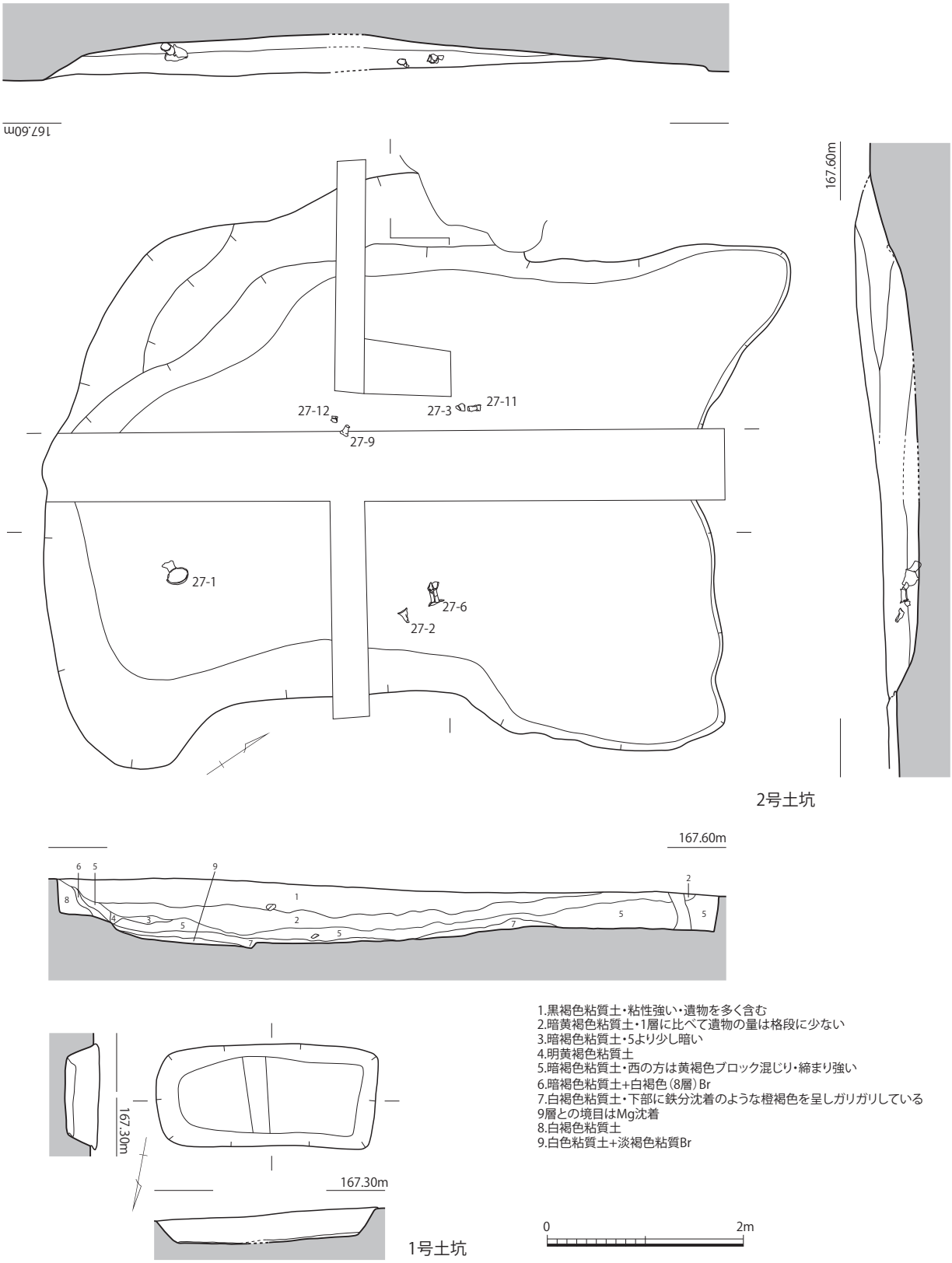
1 号土坑（第 26 図）は土坑墓の可能性も考えられるが、主体部とするには小型で幅が広いことから土坑とした。2 号土坑（第 26 図）は墓群よりやや離れた状態で黒色系の埋土が堆積した長さ 6 ～ 9m 程の浅いくぼみ状の落ち込みで、レンズ状に上（1）層、中（2）層、下（3 ～ 6）層の大きく分けて 3 層順に堆積していた。これらの最下層の7･9層にはマンガン堆積や鉄分沈着が見られることから、この落ち込み状の土坑は当初水気を含む溜で、その後下・中・上層と連続して自然堆積していったものと考えられる。

この落ち込みからは遺物が複数出土しており、墳墓群の祭祀土坑としての扱いであったと考えられる。湿った溜部分に祭祀土器を投げ込んだのであろうか。ただし遺物の出土が多いのは中層と上層で中層からの出土は少なかった。

遺物は大きく下層の（1）、中層の（2・6）、（3・11）、上層の（9・12）の単位に分けられ、埋没時期の差を示す可能性がある。1 は注口付長頸壺、2 ～ 4 は在地系高坏、5 は豊前系の高坏、6 ～ 8 は在地系高坏脚部である。9 は畿内系高坏の脚部、10 は打製石鏃、11 は手鎌、12 は袋状鉄斧である。

その他の遺構

調査区からはその他にも溝などが確認されている。1・2 号溝は調査区東側にあり方位軸を併せて置かれていたが、埋土が柔らかいことから近世から近代のものと判断した。また墳墓群のそばにも溝状の掘り込みが見られたが周溝墓や区画墓などとは判断できなかった。

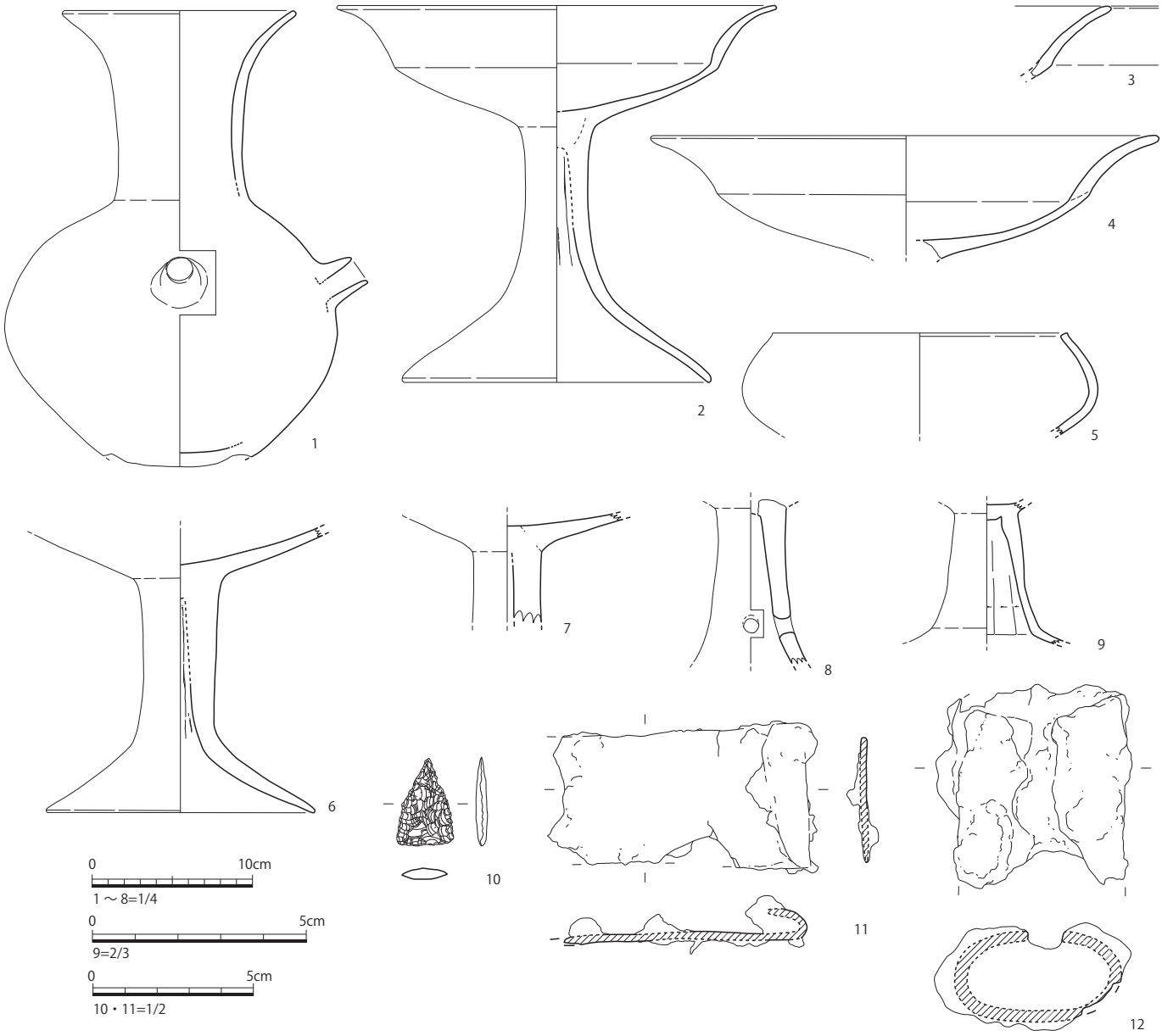


第 26 図　土坑実測図（1/60）

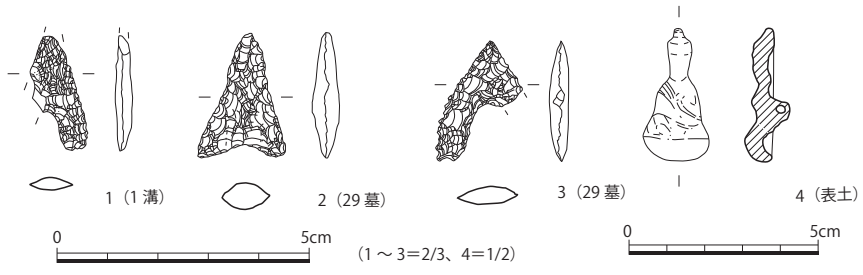
その他の出土遺物（第 28 図）

溝や墓から出土したその遺構に伴わない遺物と表土中から出土した遺物を紹介する。

1 ～ 3 は打製石鏃である。いずれも凹基式の鏃で縄文期のものであろうか。4 は青銅製の懸仏で、3 次調査で確認された中世の塚などと関連するものであろうか。



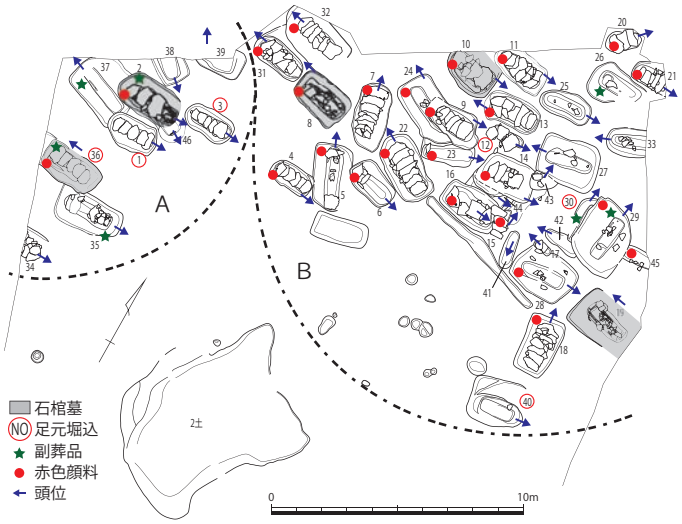
第 27 図　2 号土坑出土遺物実測図（2/3、1/2、1/4）



第 28 図　その他の遺物実測図（2/3、1/2）

Ⅳ　総括

過去 4 次の調査（第 1・3 図）から、墳墓群は元宮原台地のなかでも最も高い舌状丘陵の頂部に位置しており、本調査区（5 次）は丘陵最頂部にあたる。この 1 ～ 4 次の墳墓群を結んだ範囲に 5 次調査区北端は含まれており、丘陵に沿って列状に墳墓が集中していたものと考えられる。5 次調査で確認された墳墓は総数 46 基の石棺・石蓋土坑墓・土坑墓が入り組み、調査区のなかでも最も標高の高い場所に密集していた。さらに墳墓群のそばには祭祀遺構（2 号土坑）があり、土層観察などから、水溜状の落ち込みに土器を捨てたような状態であったと考えられ、なおかつ複数回の廃棄行為が確認された。



第 29 図　墳墓群展開図（1/400）

さて、2 号土坑の時期は下・中層が在地系の長頸壺 27-1 や高坏 27-2・3・6 などから 5a 期、上層は布留系高坏脚部 27-9 からⅠｂ～Ⅱ期、そのほか高坏 27-4 が 5b 期に該当し、概ね弥生後期終末から古墳前期までの各時期毎の廃棄が想定される。墳墓出土遺物は供献ないし埋没時の流入などがあり、37 号墓の平底気味の底部 25-2 は 4 ～ 5a 期、18 号墓の高坏 19-3 は 5a 期、46 号墓の在地系高坏 25-4 や小型丸底壺 27-3 はⅠ期、29 号墓の小型二重口縁壺 25-1 はⅠｂ～ｃ期で 2 号土坑の廃棄時期とほぼ合致する。一方で、2 号墓出土の須恵器𤭯 9-1 はＴＫ 218 ～ 208 期に該当し中期中頃とやや新しい。このように出土遺物から想定される墳墓群の継続時期は弥生後期終末から古墳中期中頃となる。そのほか、29・30 号墓の鉄鏃は柳葉式有茎鏃で水野氏の前期 1（前半）、29 号墓の素環頭刀は児玉氏のⅡ型に該当し朝日宮ノ原遺跡Ｄ区 16 号墓に類似し概ね弥生終末から古墳前期代、2 号墓の片刃形長頸鏃は鏃身関部が角をなし頸部も角関とみられることから水野氏の中期３～４期頃(中期中頃から後半)と想定される。このように鉄器は土器で想定される時期と大きく齟齬はないものと想定される。

次に墳墓群の型式・頭位方向・副葬遺物などの特徴について検討する。調査区西端側に土坑墓（26 ～ 30）が集中する傾向が見られるものの、その他の型式の分布に大きな違いはなく、型式毎の時期変遷は明確な傾向は見いだせない。主軸方向については分布に違いはなく、東西主軸のものが主体を占め、南北主軸は数基である。頭位方向は主軸同士で混在しており、時期毎に頭位が異なる可能性があることから、弥生時代以来の差し向かいの原理が維持されていたものであろうか。副葬遺物については、調査区西端と東端の遺構に多く、赤色顔料は調査区中央部から東側の墳墓に多く見受けられる。以上の特徴と分布域などから、調査区西側（A 群）と中央部から東側（B 群）の 2 群に大きく分かれ、B 群はさらに分布型式の違いなどから中央部と東部に分かれる可能性がある。また、A・B 両群では相互の墓の位置を意識した造営が行われており、A 群の 35・36 や B 群の 8・31・32、10・11・12・13 や 14・16 といった相互の墳墓位置を意識した造営関係が見られる一方で、時期の新しい 2 号墓のように古い墳墓を大幅に破壊する行為が B 群の 9・29 号墓でも見られることが特徴である。

以上をまとめると、墳墓の造営は弥生終末から古墳前期に継続的に実施され、相互の墳墓を意識した造営単位が抽出可能で、その単位には赤色顔料の塗布や副葬品、墳墓形式の違いなどがあり、明瞭ではないが単位間の差異等を示すものであったと想定される。しかし、中期に入ると墳墓を大きく破壊して造営する墳墓が出現するなど、祖先意識が薄れつつも従来の紐帯が意識されていたものと考えられる。

5 次調査の成果をもとに元宮遺跡の墓域形成過程を整理すると、1・2・4 次は弥生後期後半の甕棺墓等、3 次調査は中期代の墳墓群が疎らに検出されていることから、弥生後期後半に開始された墓域造営は丘陵西側を中心としながら開始され、中央部の 5 次一帯に密集し、中期代になるとそれまでの墳墓造営と異なり、東側の 3 次も含めて疎らな造営が行われるものと想定される。いずれにしても今回の調査は元宮遺跡のみならず、筑後川上流域の弥生時代後期後半から古墳時代中期にかけての墓域形成を考える上での貴重な成果を得られたと言える。

【参考文献】

児玉真一　1982 「鉄製素環頭 - 集団墓出土資料を中心に -」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』

水野敏典　2007 「古墳時代鉄鏃研究の諸問題」『古代武器研究』第 8 号　古代武器研究会

渡邉隆行　2017 「筑後川上流域の古式土師器の状況」『九州島における古式土師器 - 第 19 回発表資料』九州前方後円墳研究会

第 1 表　検出墳墓一覧表

図版番号	遺構名	種別	主軸（°）	墓壙規模（cm）			主体部					赤色顔料		出土物	石材	備考
				長さ	幅	深さ	長さ	幅	深さ	床長	床幅	蓋内	主体			
6	2 号墓	石棺墓	93	265 ＋α	150	19	215	47	32	187	32	○	○	鉄鏃 5、鉄刀 1、鎧 1	-	
	8 号墓	石棺墓	334	229	149	14	162	42	40	143	29	×	○		-	
7	10 号墓	石棺墓	111	217	153	14	165	44	37	156	40	○	○	人骨片	-	
	19 号墓	石棺墓	292	232 ＋α	180 ＋α	15	155	43	43	156	40	×	×		-	
8	36 号墓	石棺墓	280	250	133	25	165	34	30	149	25	○	○	鉇 1	-	
10	1 号墓	石蓋土坑墓	83	212	127	23	177	53	41	158	30	×	×	-	凝灰岩	足元掘り込み深さ 7cm
	3 号墓	石蓋土坑墓	94	205	112	20	172	55	30	169	45	×	×	-	頭部・足元安山岩、他は凝灰岩	足元掘り込み深さ 5cm
11	4 号墓	石蓋土坑墓	101	181	98	20	163	50	20	153	35	○	×	-	安山岩	
	5 号墓	石蓋土坑墓	336	265	153	10	248	66	40	200	37	○	○	-	安山岩	
12	6 号墓	石蓋土坑墓	110	204	123	10	189	68	41	141	28	○	×	-	安山岩	
	7 号墓	石蓋土坑墓	342	260	138	15	203	82	44	174	48	○	×	-	安山岩	
13	9 号墓	石蓋土坑墓	106	244	142	10	176	86	32	140	50	○	×	鉇 1	安山岩	
	11 号墓	石蓋土坑墓	129	233	124	13	125	84	36	158	47	○	×		-	
14	12 号墓	石蓋土坑墓	101	-	-	-	132	48	18	124	33	×	×		-	
	13 号墓	石蓋土坑墓	267	230	118	16	199	91	52	168	34	○	×		-	
15	14 号墓	石蓋土坑墓	104	228	146	22	150	56	31	130	33	○	×		-	
	15 号墓	石蓋土坑墓	351	-	-	-	106	30	24	95	23	○	×		-	
	17 号墓	石蓋土坑墓	284	-	-	-	76	32	12	70	18	×	×		-	
16	16 号墓	石蓋土坑墓	102	248	147	19	204	82	38	181	46	○	○		西側 2 凝灰岩、東側 2 安山岩	
	18 号墓	石蓋土坑墓	9	242	152	29	172	40	39	168	37	○	○	土器	-	
17	20 号墓	石蓋土坑墓	81	-	-	-	144	82	44	120	34	○	×		-	
	21 号墓	石蓋土坑墓	90	120 ＋α	91 ＋α	7	112	76	37	90 ＋α	36	○	×		-	
	22 号墓	石蓋土坑墓	319	282	157	29	228	93	56	192	52	○	×		-	
18	31 号墓	石蓋土坑墓	288	223	110	24	198	64	33	172	36	○	○		-	
	32 号墓	石蓋土坑墓	294	284 ＋α	168 ＋α	4	104 ＋α	65	35	81 ＋α	33	○	○		-	
	35 号墓	石蓋土坑墓	271	275	147 ＋α	17	206	67	38	172	36	×	×	鉇 1	-	
20	34 号墓	石蓋土坑墓	107	100 ＋α	-	7	81 ＋α	66	37	69 ＋α	54	×	×	-	-	
	23 号墓	土坑墓	71	214 ＋α	96 ＋α	4	210	44	26	176	47	×	○		-	
21	24 号墓	土坑墓	302	300	157	22	219	55	45	206	46	×	○		-	
	25 号墓	土坑墓	85	213	112	19	178	60	40	152	36	×	×		-	
	26 号墓	土坑墓	275	225	162	31	180	67	32	147	58	×	×	袋状鉄斧 1	-	
	27 号墓	土坑墓	261	247	191	20	190	67	45	179	40	×	×		-	土坑縁に白色粘土
22	28 号墓	土坑墓	88	263	183	27	183	60	46	167	46	×	○		-	
	29 号墓	土坑墓	7	273	211	39	183	54	55	185	49	×	○	素環頭刀 1、鉄鏃 1、土器	-	
	30 号墓	土坑墓	2	202 ＋α	88 ＋α	13	174	55	54	164	47	×	×	鉄鏃 1	-	
23	33 号墓	土坑墓	261	157 ＋α	112	17	136 ＋α	54	45	123 ＋α	31	×	×	-	-	
	37 号墓	土坑墓	296	265	204	20	202 ＋α	57	32	196 ＋α	50	×	×	鉄刀 1、土器	-	
	38 号墓	土坑墓	137	108 ＋α	122	18	90 ＋α	72	48	86 ＋α	58	×	×	-	-	
	39 号墓	土坑墓	-	185 ＋α	95 ＋α	18	131 ＋α	55 ＋α	34	108 ＋α	45 ＋α	×	×	-	-	
24	40 号墓	土坑墓	88	195 ＋α	191	36	145	55	18	65 ＋α	48	×	×	-	-	
	41 号墓	土坑墓	173	-	-	-	156	51	42	135	32	×	×	-	-	
	42 号墓	土坑墓	284	-	-	-	154	56 ＋α	21	135	41 ＋α	×	×	-	-	
	43 号墓	土坑墓	10	-	-	-	250 ＋α	61 ＋α	21	250 ＋α	61 ＋α	×	×	-	-	
	44 号墓	土坑墓	107	173	85 ＋α	18	98	32	14	88	20	×	×	-	-	
	45 号墓	土坑墓	-	-	-	-	125 ＋α	64	35	111 ＋α	43	○	×	-	-	
	46 号墓	土坑墓	116	89 ＋α	109	21	208	72	36	200	45	×	×	土器	安山岩	

※方位角は磁北を 0°（360°）、東を 90°、南を 180°、西を 270°として示す。

第 2 表　出土土器観察表

図版番号		出土遺構		種別	器種	法量（cm）				調整		胎土	焼成	色調				備考
						口径	器高	底径	胴径	内面	外面			内面（裏）	Hue	外面（表）	Hue	
9	1	2 墓		須恵器	甕	8.7	9.6	-	11.0	回転ナデ	回転ナデ	EF	良	暗灰色	N3/	暗灰色	N3/	外面自然釉
19	3	18 墓	蓋上	弥生	高坏坏部	-	(5.0)	-	-	ナデ	ハケ目ナデ	ACE	良	橙色	7.5YR6/6	橙色	7.5YR6/6	
25	1	29 墓		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ壺	(7.0)	(2.7)	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ACE	良	橙色	7.5YR7/6	橙色	7.5YR7/6	内外面に赤彩か？
	2	37 墓	検出	弥生	甕	-	(2.6)	(7.2)	-	ナデ・指オサエ	ナデ	ADE	良	にぶい黄橙色	10YR7/4	にぶい黄橙色	10YR7/4	外面に黒斑あり
	3	46 墓		土師器	小型丸底壺	-	(6.0)	-	-	不明瞭・ナデ	不明	AE	良	明黄褐色	10YR6/6	明黄褐色	10YR6/6	
	4	46 墓		弥生	高坏脚部	-	(16.1)	-	-	不明瞭・シボリ痕	不明	AE	良	橙色	7.5YR7/6	橙色	7.5YR7/6	
27	1	2 土		弥生	注口長頸壺	(14.1)	(28.5)	-	20.6	ナデか	ナデか	ADE	良	明赤褐色	5YR5/6	明赤褐色	5YR5/6	底部は厚底か？
	2	2 土	上層、トレ	弥生	高坏	(27.2)	23.4	(19.0)	-	ナデ・シボリ痕	不明	ABCE	良	にぶい黄橙色	10YR7/4	にぶい黄橙色	10YR7/4	外面に黒斑あり
	3	2 土		弥生	高坏	-	-	-	-	不明	不明	AB	良	にぶい黄橙色	10YR7/3	にぶい黄橙色	10YR7/3	
	4	2 土		弥生	高坏坏部	31.3	(7.6)	-	-	不明	不明	ACD	良	明黄褐色	10YR7/6	明黄褐色	10YR7/6	
	5	2 土	トレ	弥生	高坏坏部	(18.3)	(6.3)	-	-	不明	不明	ADE	良	明黄褐色	10YR7/6	明黄褐色	10YR7/6	外面に黒斑あり
	6	2 土		弥生	高坏	-	(17.6)	(16.6)	-	ナデ・シボリ痕	不明	ABCE	良	明赤褐色	5YR5/6	明赤褐色	5YR5/6	
	7	2 土		弥生	高坏	-	(6.7)	-	-	不明	不明	ADE	良	にぶい黄橙色	10YR7/3	にぶい黄橙色	10YR7/3	
	8	2 土	トレ	弥生	高坏脚部	-	(10.1)	-	-	不明	不明	BEG	良	灰黄褐色	10YR5/2	灰黄褐色	10YR5/2	穿孔 1 ヶ所残存
	9	2 土		土師器	高坏脚部	-	(8.8)	-	-	ナデ	ナデ・ケズリ	ACDE	良	橙色	5YR6/6	橙色	7.5YR7/6	外面に黒斑あり

第 3 表　出土石器・金属器観察表

法量の単位は㎝。() 書きは、残存と復原を表す。
胎土：A 角閃石　B 石英　C 長石　D 赤色粒子
E 白色粒子　F 黒色粒子　G 雲母　H 砂粒

図版番号		遺構	器種	法　量（c m）			重さ（g）	材質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
9	2	2 墓	鉄鏃	13.5	1.6	0.7	14.3		
	3	2 墓	鉄鏃	13.6	1.4	0.5	11.3		
	4	2 墓	鉄鏃	12.8	1.6	0.6	11.9		
	5	2 墓	鉄鏃	(8.7)	(1.2)	0.4	7.3		
	6	2 墓	鉄鏃	(10.9)	1.6	0.9	11.1		
	7	2 墓	鉄刀	70.1	4.8	1.2			
	1	36 墓	鉇	(5.6)	1.7	0.5	4.6		
19	1	9 墓	鉇	(13.7)	1.9	0.6	13.3		
	3	35 墓	鉇	(5.1)	1.5	0.4	4.4		
25	5	26 墓	袋状鉄斧	(7.0)	4.2	2.4	73.7		
	6	29 墓	鉄鏃	(11.0)	3.2	0.8	46.5		
	7	30 墓	鉄鏃	(14.2)	3.1	0.9	41.1		
	8	29 墓	素環頭刀	46.1	3.7	1.0			
	9	37 墓	鉄刀	(51.3)	6.2	1.3			
	10	2 土	打製石鏃	2.05	1.35	0.30	0.64	黒曜石	
	11	2 土	摘鎌	4.7	(8.4)	1.8	38.2		
	12	2 土	袋状鉄斧	(6.4)	6.2	3.3	123.5		
28	1	1 溝	打製石鏃	(2.25)	(1.15)	0.35	0.69	黒曜石	先端部・片脚部欠損
	2	29 墓	打製石鏃	2.45	1.75	0.55	1.41	黒曜石	
	3	29 墓	打製石鏃	2.35	(1.70)	0.40	0.90	黒曜石	片脚部欠損

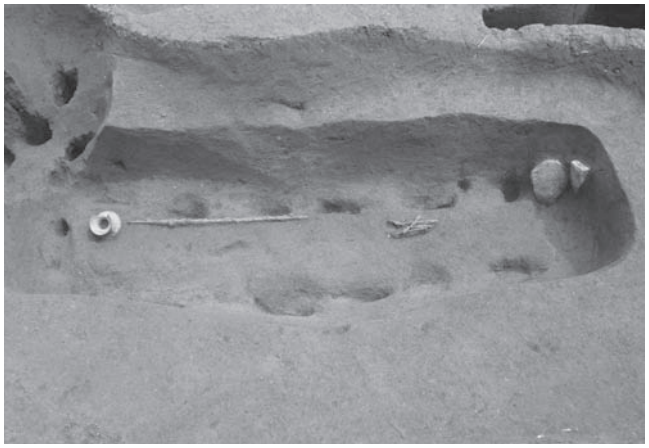
調査区遠景（東から）

調査区全景（上が南西）

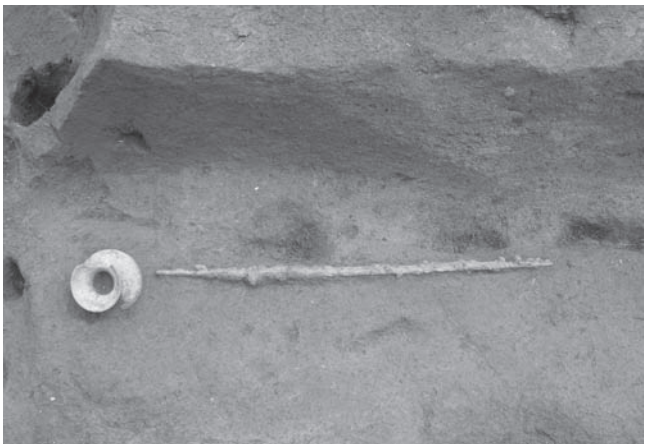
写真図版 2

① 2 号墓検出状況（東から）

② 2 号墓石棺検出状況（北から）



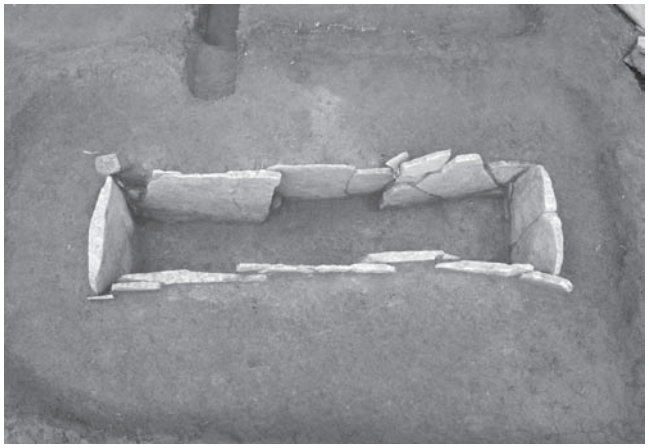
③ 2 号墓完掘状況（北から）



④ 2 号墓副葬品出土状況①

⑤ 2 号墓副葬品出土状況②

⑥ 8 号墓検出状況（南西から）



⑦ 8 号墓石棺検出状況（南西から）

⑧ 8 号墓完掘状況（南西から）

① 10 号墓検出状況（北から）

② 10 号墓人骨出土状況（北から）

③ 10 号墓完掘状況（北から）

④ 19 号墓検出状況（南から）

⑤ 19 号墓完掘状況（南から）

⑥ 36 号墓検出状況（南から）

⑦ 36 号墓石棺検出状況（南から）

⑧ 36 号墓完掘状況（南から）

写真図版 4

① 1 号墓検出状況（東から）

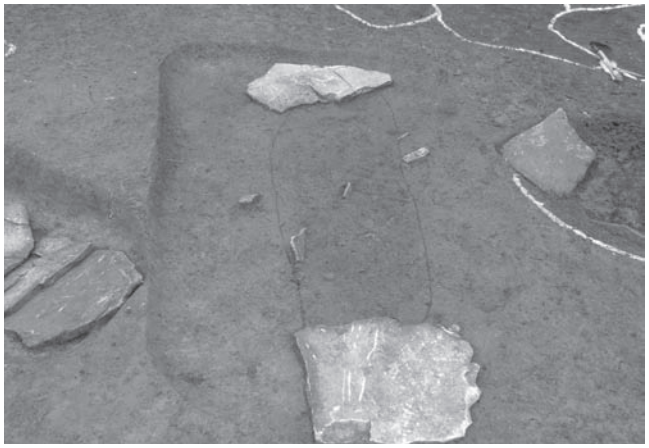
② 1 号墓完掘状況（南から）

③ 3 号墓検出状況（西から）

④ 3 号墓完掘状況（南から）

⑤ 4 号墓検出状況（西から）

⑥ 4 号墓検出状況（西から）

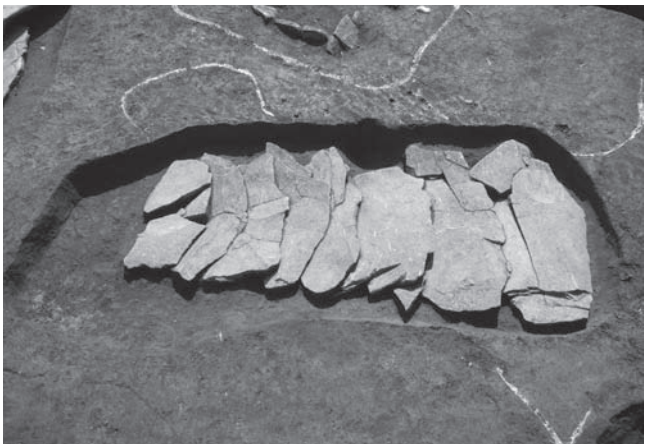


⑦ 5 号墓検出状況（南東から）

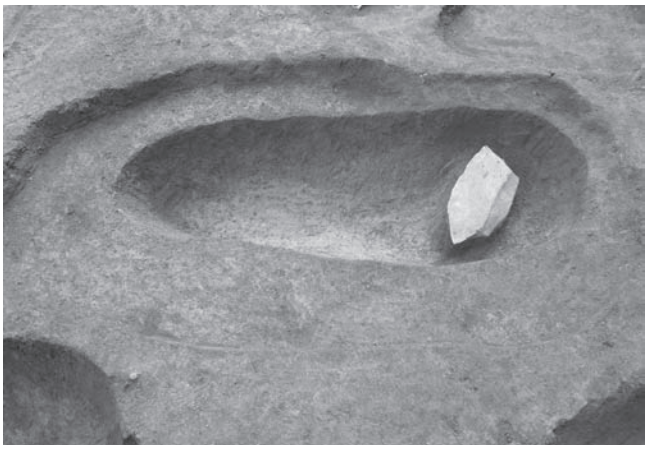
⑧ 5 号墓完掘状況（北東から）

① 6 号墓検出状況（南東から）

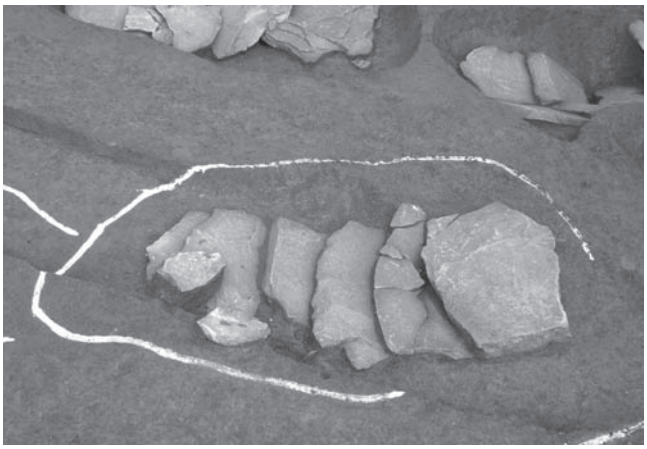
② 6 号墓完掘状況 (南西から）



③ 7 号墓検出状況（北東から）



④ 7 号墓完掘状況（北東から）



⑤ 9 号墓検出状況（南から）

⑥ 9 号墓完掘状況（南から）

⑦ 11 号墓検出状況（北から）

⑧ 11 号墓完掘状況（北から）

写真図版 6

① 12 号墓検出状況（東から）

② 12 号墓完掘状況（南から）

③ 13 号墓検出状況（南から）

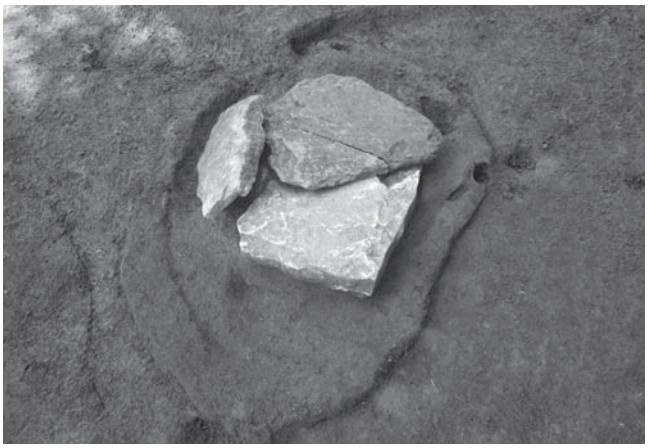
④ 13 号墓完掘状況（南から）

⑤ 14 号墓検出状況（南から）

⑥ 14 号墓完掘状況（南から）

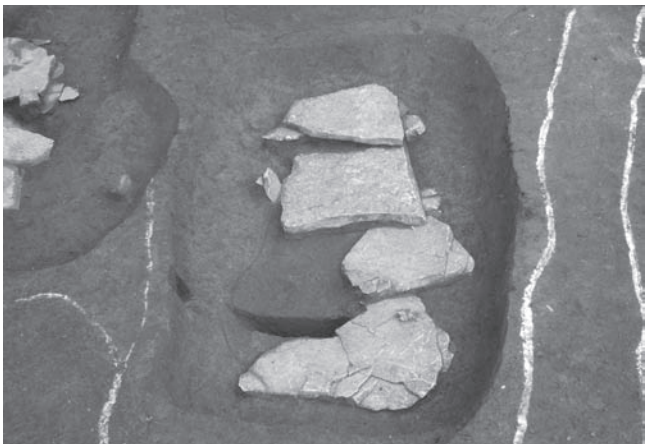
⑦ 15 号墓検出状況（南から）

⑧ 15 号墓完掘状況（東から）



① 17 号墓検出状況（東から）

② 17 号墓完掘状況（南から）



③ 16 号墓検出状況（西から）

④ 16 号墓完掘状況（南から）

⑤ 18 号墓検出状況（南から）

⑥ 18 号墓完掘状況（東から）

⑦ 20 号墓検出状況（南東から）

⑧ 20 号墓完掘状況（南東から）

写真図版 8

① 21 号墓検出状況（南から）

② 21 号墓完掘状況（南から）

③ 22 号墓検出状況（南西から）

④ 22 号墓完掘状況（南西から）

⑤ 31 号墓検出状況（南から）

⑥ 31 号墓完掘状況（南から）

⑦ 32 号墓検出状況（北から）

⑧ 32 号墓完掘状況（北から）

① 35 号墓検出状況（北から）

② 35 号墓完掘状況（北から）

③ 23 号墓検出状況（南東から）

④ 23 号墓完掘状況（南東から）

⑤ 34 号墓検出状況（北から）

⑥ 34 号墓完掘状況（北から）

⑦ 24 号墓検出状況（南東から）

⑧ 24 号墓完掘状況（北から）

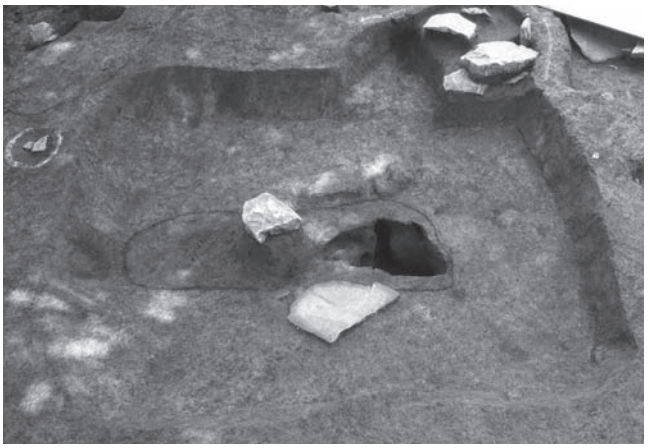
写真図版 10

① 25 号墓検出状況（東から）

② 25 号墓完掘状況（東から）

③ 26 号墓検出状況（東から）

④ 26 号墓完掘状況（南から）



⑤ 27 号墓検出状況（北から）

⑥ 27 号墓完掘状況（南から）

⑦ 28 号墓完掘状況（南から）

⑧ 29 号墓検出状況（東から）

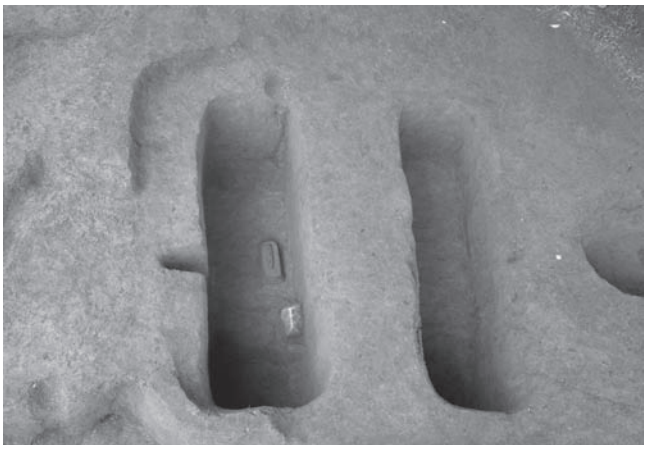
① 29 号墓完掘状況（東から）

② 29 号墓遺物出土状況

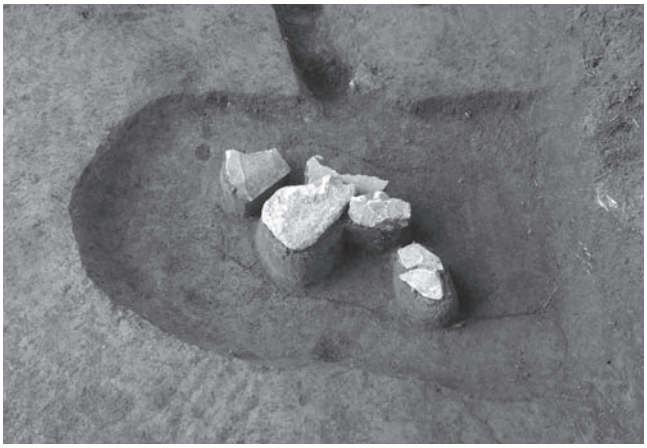
③ 30 号墓検出状況（東から）

④ 30 号墓完掘状況（東から）

⑤ 30 号墓副葬品出土状況



⑥ 29・30 号墓完掘状況（南から）

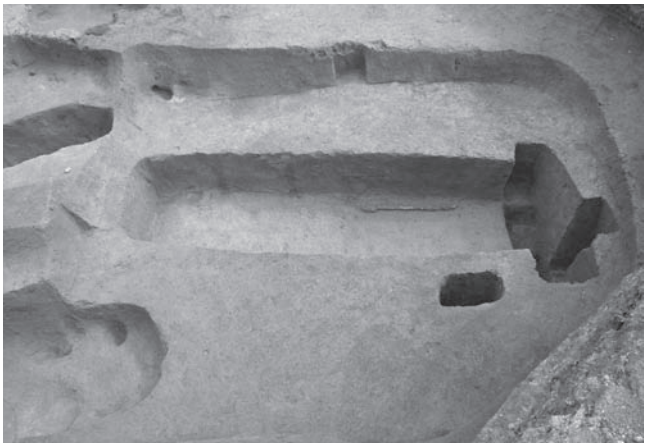


⑦ 33 号墓検出状況（南東から）

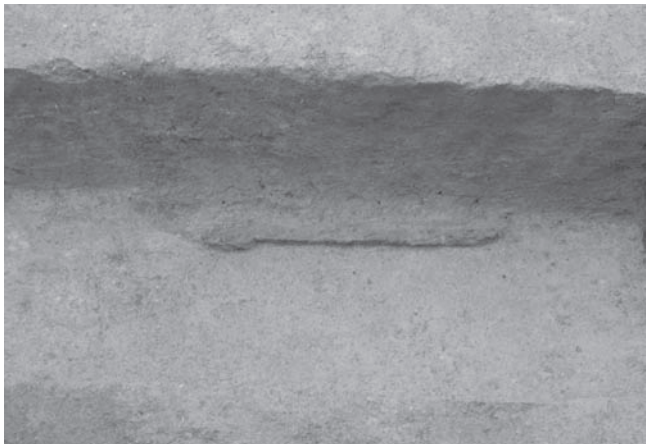
⑧ 33 号墓完掘状況（南東から）

写真図版 12

① 37 号墓検出状況（北東から）



② 37 号墓完掘状況（北東から）



③ 37 号墓副葬品出土状況

④ 38 号墓完掘状況（南西から）

⑤ 39 号墓完掘状況（南から）

⑥ 40 号墓完掘状況（南東から）

⑦ 41 号墓完掘状況（北東から）

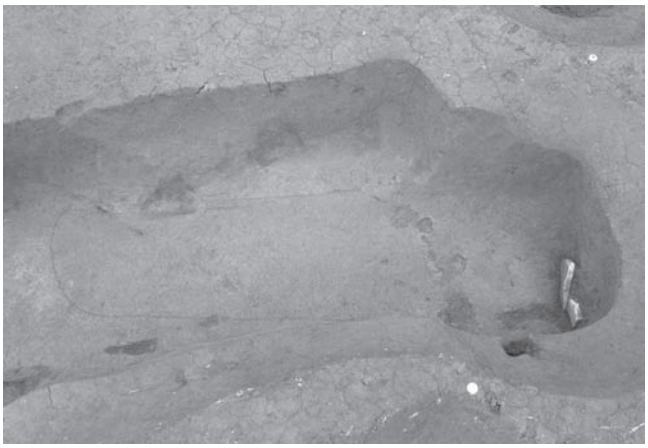
⑧ 42 号墓完掘状況（南から）

① 43 号墓完掘状況（東から）

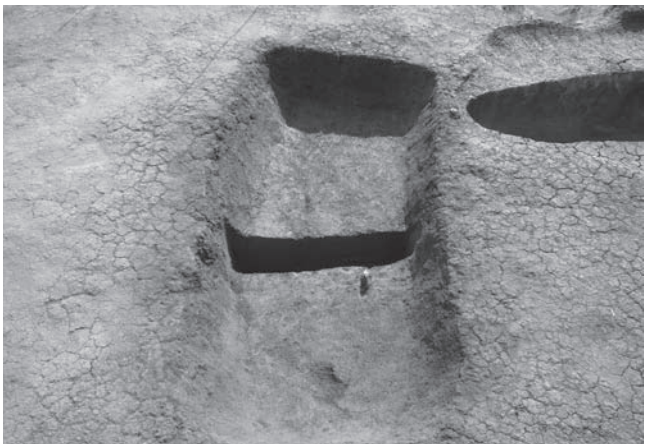
② 44 号墓完掘状況（南から）

③ 45 号墓検出状況（北から）

④ 45 号墓完掘状況（南から）



⑤ 46 号墓検出状況（南西から）



⑥ 1 号土坑完掘状況（東から）

⑦ 2 号土坑検出状況（南東から）

⑧ 2 号土坑土層①

写真図版 14

① 2 号土坑土層②

② 2 号土坑完掘状況（南から）

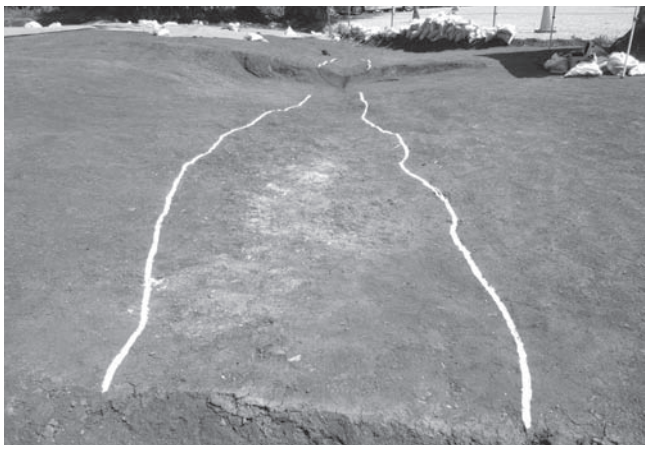
③ 2 号土坑遺物出土状況①

④ 2 号土坑遺物出土状況②

⑤ 2 号土坑遺物出土状況③

⑥ 2 号土坑遺物出土状況④

⑦ 1 号溝完掘状況（北西から）



⑧ 2 号溝検出状況（南から）

9-1

9-5

9-6

9-2

9-3

9-4

9-7

9-8

19-1

25-1

25-5

25-6

25-7

19-2

25-8

写真図版 16

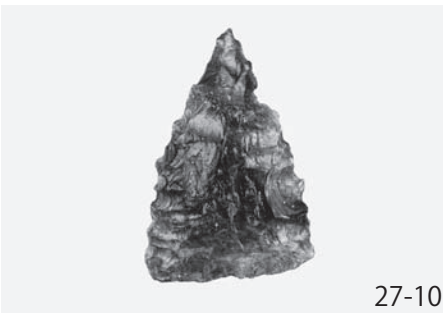
25-9

27-1

27-6

27-4

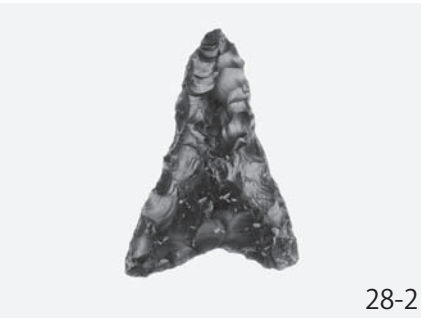
27-9

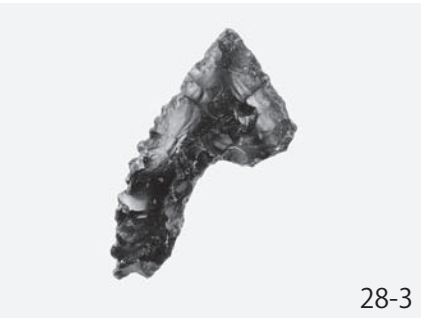

27-10

27-11

27-12

28-1


28-2


28-3

28-4

報 告 書 抄 録

ふ り が な	もとみやいせき５じ
書　　名	元宮遺跡　５次
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 127 集
編 著 者 名	行時　桂子・渡邉　隆行
編 集 機 関	日田市教育庁文化財保護課
所　在　地	〒 877-8601　日田市田島 2-6-1
発 行 機 関	日田市教育委員会
所　在　地	〒 877-8601　日田市田島 2-6-1
発 行 年 月 日	2017 年 3 月 24 日

所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	発掘期間	発 掘 面 積	調査原因
		市町村	遺 跡 番 号					
もとみやいせき 元宮遺跡	大分県日田市大字求来里	44204-6	204192	33° 18′ 48″	130 ° 57’ 34”	140414 ～ 140807	820 ㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元宮遺跡	集落	弥生 古墳	石棺墓、石蓋土壙墓、土壙墓、土坑、溝	須恵器、土師器、鉄鏃、鉄刀	

要　約	遺跡は日田盆地東部の台地上に位置する。本遺跡では今回の調査を含め、５次（箇所）にわたる調査が行われているが、調査地一帯の舌状台地上に弥生時代終末から古墳時代中期までの墳墓群が存在していたものと想定される。 ５次調査では弥生時代終末から古墳時代中期頃の石棺墓や石蓋土壙墓などの墳墓群が密集して確認された。これまでの墳墓域のなかで、調査地が最も密集度が高く多数の副葬品が出土し、かつ古墳時代中期頃まで継続するなど様々な成果を得ることが出来た。

元宮遺跡 5 次

日田市埋蔵文化財調査報告書第 127 集

2016 年 3 月 24 日

編集　日田市教育庁　文化財保護課

〒877-0077　大分県日田市南友田町 516-1

発行　日田市教育委員会

〒877-8601　大分県日田市田島 2-6-1

印刷　尾花印刷有限会社

〒877-0026　大分県日田市田島本町 8-8

VEGETABLE OIL INK